

第1章 福崎町の概況

1. 福崎町の特性

(1) 位置・地勢

本町は、兵庫県の中央部からやや南寄り（北緯 34°57′、東経 134°46′）に位置し、周辺を緑の山々で囲まれた盆地形状の町域となっています。町域は、東西 10.1km、南北 11.5km、総面積 45.79k m²であり、北は市川町、南と西は姫路市、東は加西市と接しています。

中央部には清流“市川”が流れており、流域に農地と市街地が広がっています。また、中国縦貫自動車道と播但連絡道路が町のやや南側の中央部で交差し、「福崎インターチェンジ」をもつ広域的な交通の要衝地でもあり、播磨地域の中心都市である姫路市の中心部から約 17km の距離にあるという極めて恵まれた交通立地条件を有しています。

気候は、概ね瀬戸内海型に属し穏やかですが、内陸型気候の影響も受けており、沿岸地域と比較して寒暖の差が大きくなっています。地形は、町の中央部を市川がほぼ南北に貫流し、西及び北西、東側は山地となっており、平野部は南方面に開けています。



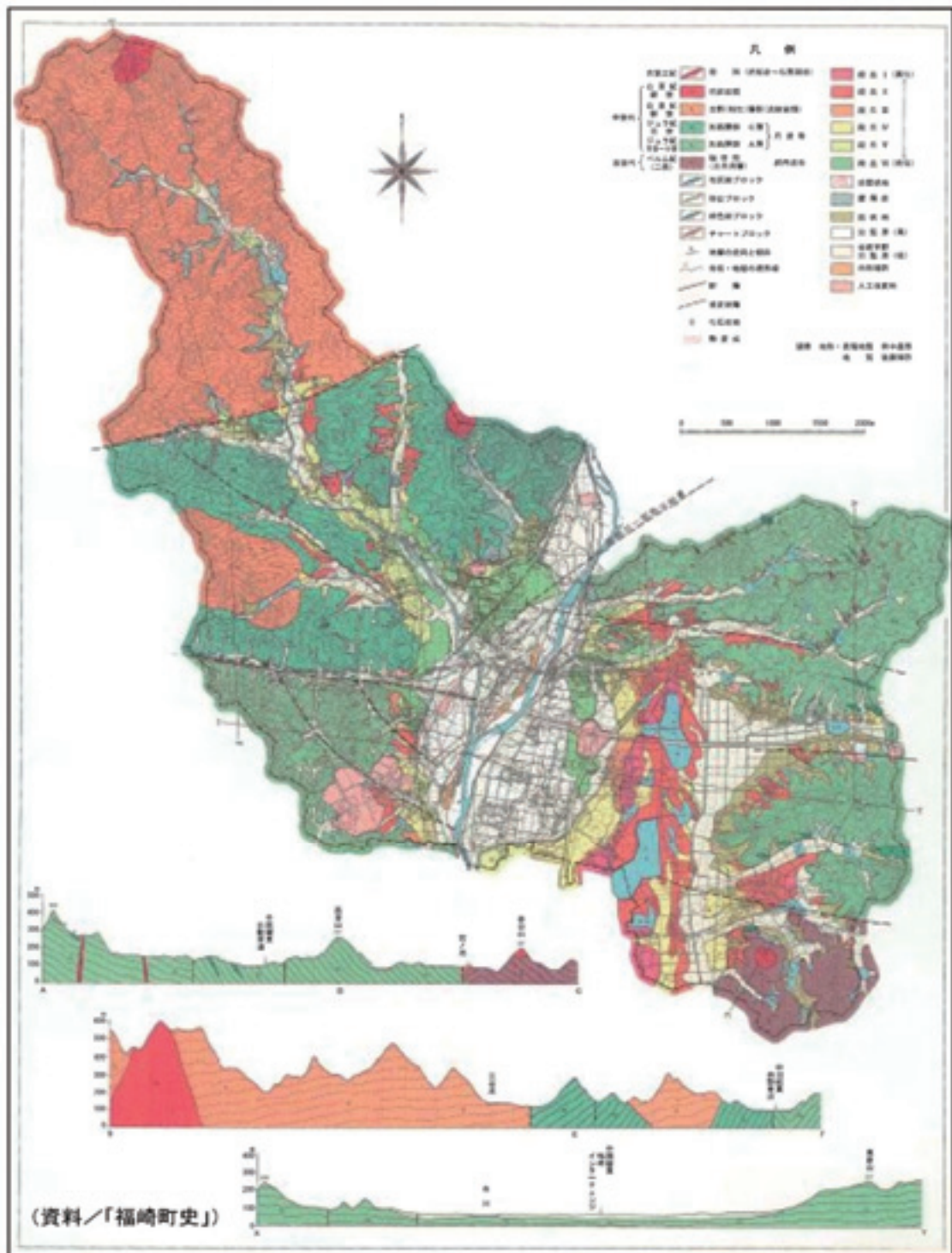
図3 福崎町の位置図

(2) 地形

町域の地形の分布は、西及び北西側には播但山地南縁の西播山地の属する標高 400～650m の小山地群、東側には加西丘陵、台地に属する標高 200～400m の山地群があり、それらの中央部分を市川がほぼ南北に貫流して、その両側に市川による河岸段丘と沖積低地が広がっています。

山地は南部を除いて町域を囲むように分布しており、市川の右岸を流れる七種川、西谷川と、左岸の谷川、雲津川、北川、前川によって開析が進んでいます。また、左岸は広範囲に台地・段丘が分布しており特徴的な地形になっています。

低地は町域南部の市川沿いの氾濫原として、及び前述の山地を刻む市川の支流沿いの狭小な谷底平野として発達しています。



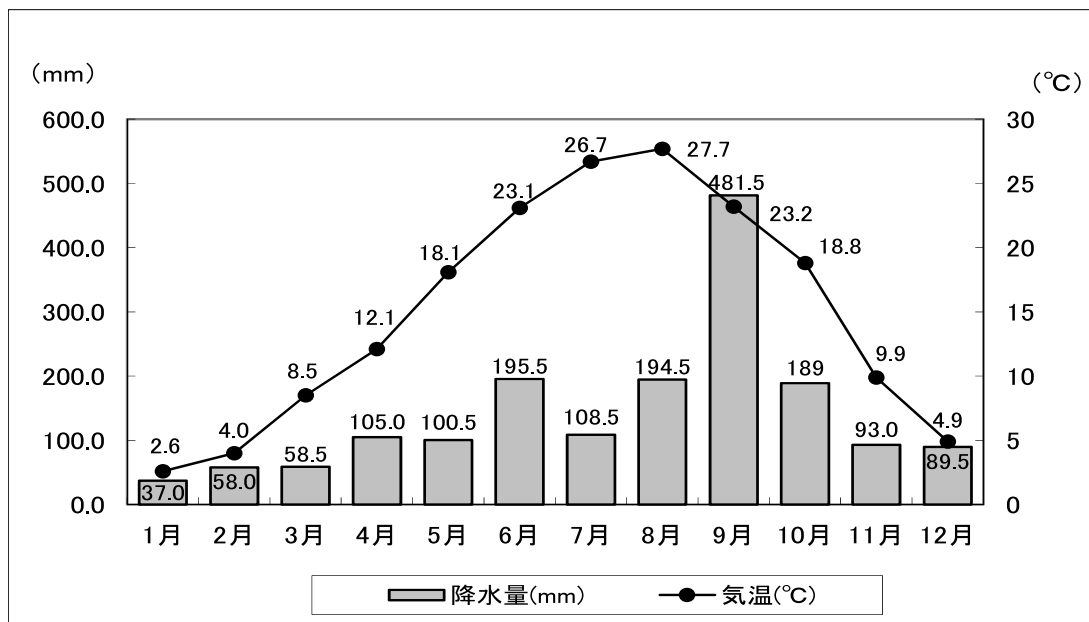
(3) 気象

概ね瀬戸内海型のおだやかな気候で、内陸型気候の影響を若干受けています。寒暖差が比較的大きい気象となっており、降水量は大半が夏季・秋季に集中しています。

風向・風速については、北風が卓越していますが、夏季には南からの風にうち消されており、夏の南西風、冬の北西風という日本の季節風の影響が色濃く見られます。

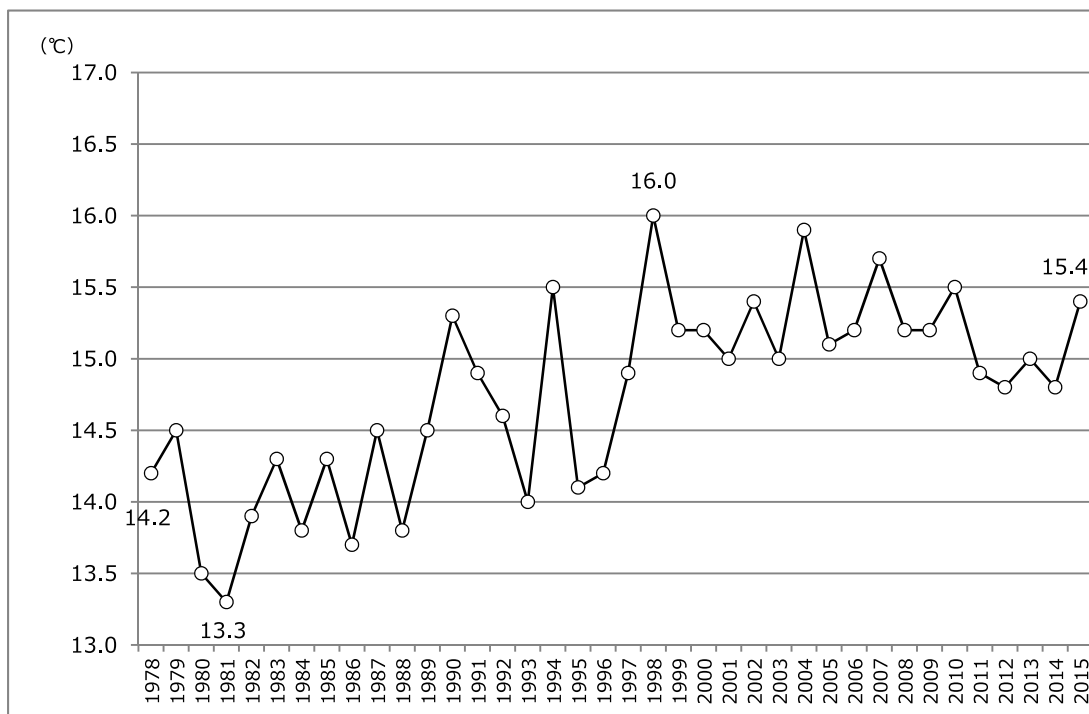
また近年、地球温暖化の影響で夏期の平均気温の上昇が見られます。局地的なゲリラ豪雨も度々発生し、床上、床下浸水などの被害が発生しています。

■ 月別降水量と平均気温（平成 26 年）



(資料／神戸地方気象台)

■ 福崎町の気象：平均気温の推移



(資料／気象庁)

(4) 自然環境

① 山林

町面積 4,579ha の内、山林面積は約 53.8%にあたる 2,462ha を占めており、保安林指定区域は、土砂流出防備保安林*、水源かん養保安林* など 580ha となっています。また、町内の災害危険箇所として土石流危険溪流*等、急傾斜地崩壊危険箇所*、山腹崩壊危険地区* 及び崩壊土砂流出危険地区* 等が指定されています。

② 河川

本町の主要河川として町中央部を南北に流れる二級河川*市川があり、その支流として七種川、平田川、雲津川、西谷川（いずれも二級河川*）、三谷川（砂防河川）及び 26 本の町管理の普通河川が流れています。また、町内を流れる中小河川は、灌漑用水を兼用しています。

■ 県管理河川 平成 26 年 10 月 1 日現在（単位：m）

区分	河川名	延長	改良	暫定改良
2 級河川	市川	4,250 (右 5,000 左 3,500)		
	七種川	5,924	1,024	
	平田川	2,800		1,386
	雲津川	3,200	1,100	1,400
	西谷川	2,500		2,500

■ 町管理河川（普通河川）

平成 26 年 10 月 1 日現在（単位：m）

区分	河川名	延長	改良	暫定改良
普通河川	大谷川	850		850
	前川	1,410		1,410
	北川	1,890	74	1,530
	大貫川	630		630
	平田川	1,380	1,380	
	大門川	630		630
	雲津川	990	190	
	谷川	2,090		
	川すそ川	1,730	245	
	高橋川	1,540	1,540	
	西谷川	1,170	260	23
	振古川	900	900	
	川端川	740		344

区分	河川名	延長	改良	暫定改良
普通河川	直谷川	1,390	42	208
	塩田川	1,300	1,250	
	大内川	2,600	880	
	矢口川	495		480
	西治川	370	370	
	ヤゴ川	508	360	
	南田原川	1,100	1,100	
	新池川	270		270
	下河原川	230	230	
	戸崎川	540	540	
	西山川	230	230	
	坂の下川	740	740	
	福田川	700	547	153

(資料/まちづくり課)

③ ため池

町内には約 200 か所のため池があり、そのうち受益面積が 0.5ha 以上の特定ため池は 95 か所ののぼります。

■ 河川図



凡例
県管轄河川
町管轄河川

(5) 都市形成の沿革

本町の土地に人が住み始めたのは、数万年前の旧石器時代と考えられています。まちの中央を流れている市川の両岸からは、旧石器、縄文、弥生、古墳時代の各時代の遺跡が見つかり、古墳時代後期につくられたと思われる古墳が、現在も段丘上や山すそに残っていることから、古くから開けた地域であったと推測されます。

奈良時代には既に、神前（崎）郡として「高岡里」（旧福崎町）、「多駝里」（田原村、八千種村）、「川辺里」（田原村の一部）の3つの里が形成されていたことが『播磨國風土記*』から読み取れ、郡名の由来となった神前山、奈具佐山（七種山）や八千軍野（八千種）の地名も記されています。その後、平安時代末から鎌倉時代にかけては、高岡荘、田原荘、蔭山荘の3つの荘園が成立していましたが、江戸時代には姫路藩領となりました。

本町成立の起源は、明治時代にさかのぼります。まず明治22年に町村制が施行されて福崎村、田原村、八千種村が誕生し、大正14年には神崎郡で初めてとなる町制を、福崎村が施行し旧福崎町となりました。その後、古くから風習や習慣を同じくし、地勢、交通などにおいて密接な関係にあった旧福崎町、田原村、八千種村の1町2村が昭和31年に合併して現在の福崎町となりました。

以降、播但連絡道路や中国縦貫自動車道の開通後は、交通の要衝として福崎工業団地などの民間開発が進み、内陸型の工業都市としての性格を強めるようになりました。その後も、車社会の進行に添うかたちで工業団地の拡張等が進み、平成9年には福崎町東部工業団地が完成しました。町内への企業進出が進む中で、福崎ICの交通需要の高まりからインターチェンジのアクセス機能の強化に取り組み、(都)大門西治線（県道三木穴栗線）及び(都)中島井ノ口線の整備を進めてきました。

（福崎町の年表：資料編参照）

2. 福崎町の現況

2-1. 人口・世帯数の推移

本町の総人口は19,745人（平成27年国勢調査速報値）です。平成初頭に1万9千人に達し平成7年から平成17年にかけては、町内大学の学生数の増減による影響で、若干の変動はあるものの概ね2万人の人口を維持しています。

しかしながら、都市計画区域の人口だけをとらえても、市街化区域においては人口定着がみられるものの、市街化調整区域*における人口減少が大きく、平成17年をピークに人口は減少しています。

平成22年国勢調査による昼間人口は22,069人で夜間人口19,830人を超過しています。通勤、通学とも流入数が流出数を上回っています。（資料編参照）

■ 都市計画区域人口の推移

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年速報値
行政区域人口（人）	19,582	20,669	19,830	19,745
都市計画区域人口（人）	19,009	19,359	19,205	—
市街化区域人口（人）	9,036	10,081	10,139	—
市街化調整区域人口（人）	9,973	9,278	9,066	—
都市計画区域外人口（人）	573	1,310	625	—

（資料／国勢調査）

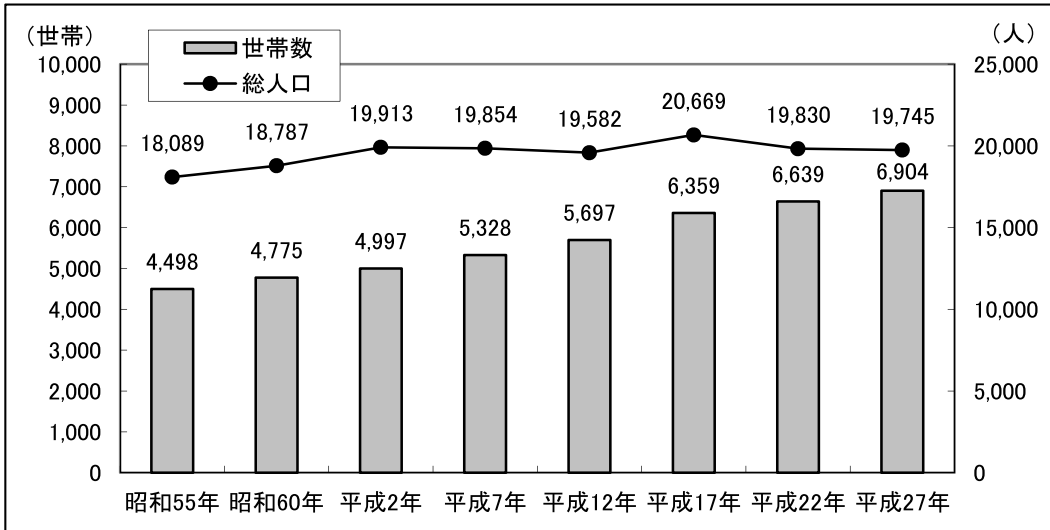
■ 人口・世帯の推移

（単位：人、（ ）内％）

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年速報値
総人口	19,582	20,669	19,830	19,745
	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
15歳未満	3,041	2,865	2,724	—
	(15.5)	(13.9)	(13.7)	—
15～64歳	12,706	13,594	12,336	—
	(64.9)	(65.8)	(62.2)	—
65歳以上	3,835	4,210	4,770	—
	(19.6)	(20.4)	(24.1)	—
世帯数	5,697	6,359	6,639	6,904
1世帯あたりの人員	3.44	3.25	2.99	2.86

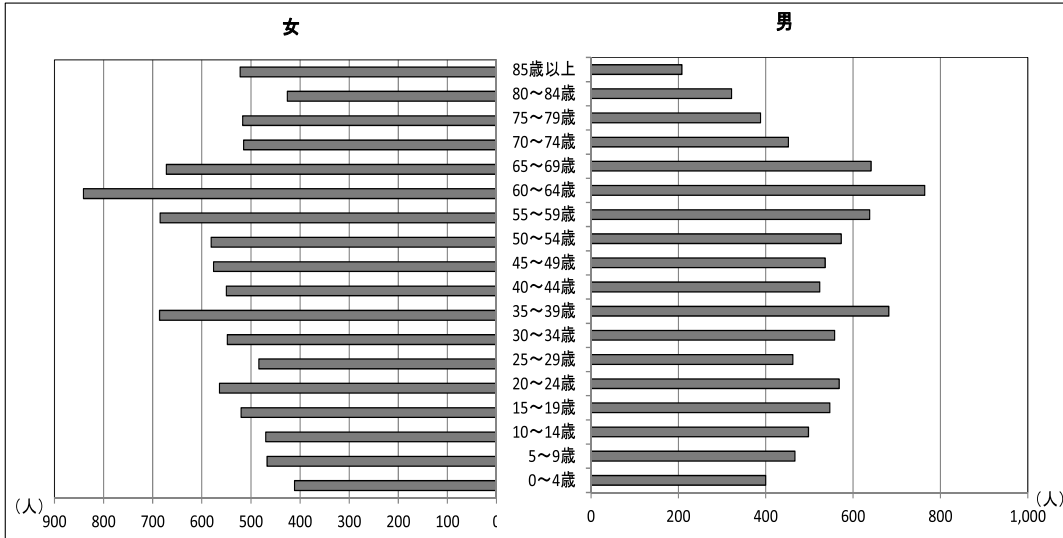
（資料／国勢調査）

■ 人口及び世帯数の推移



(資料/国勢調査)

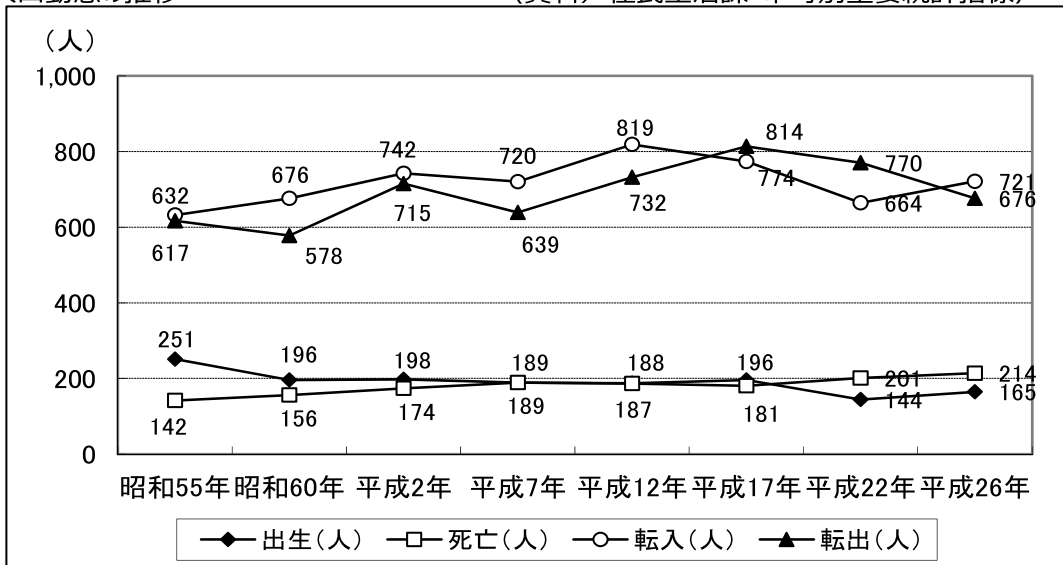
■ 5歳階級別・男女人口構成 (平成22年)



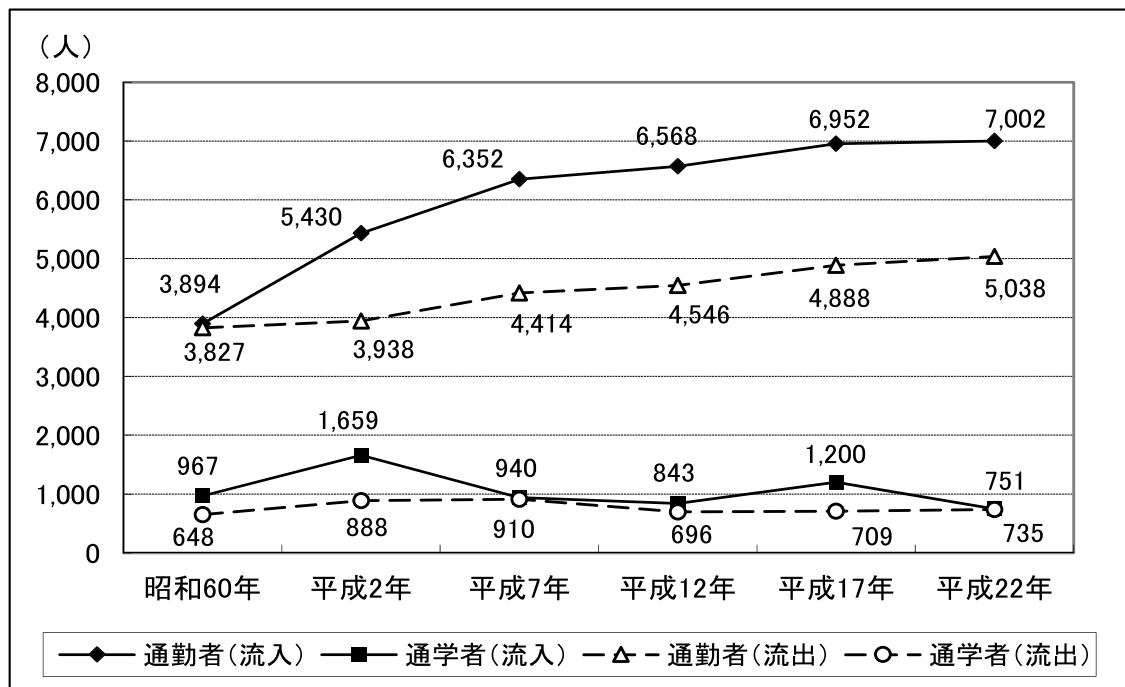
(資料/国勢調査)

■ 人口動態の推移

(資料/住民生活課・市町別主要統計指標)



■ 人口流動の推移



■ 通勤・通学動態 (平成 22 年)



※移動が多い市町村の上位 5 位までを表記

(資料/国勢調査)

2-2. 土地利用の現状

本町は、中播磨地域の内陸部にあり、山に囲まれまちの中央を市川が流れる、豊かな自然を有しています。本町の面積は 4,579ha あり町域の約 83%が都市計画区域に指定されています。このうち約 11%に相当する町中央部の低地を中心とした 425ha が、市街化区域に設定されています。

市街化区域は、JR 福崎駅周辺から市川左岸の福崎インターチェンジ周辺に広がっています。駅を中心として栄えてきた駅前周辺部は、古くから土地利用が進んだために、住工混在地が広く分布しています。市川左岸は、農地などの低・未利用地*が多く残っていましたが、新しく整備された道路沿線の商業地などの、土地利用が顕著になっています。

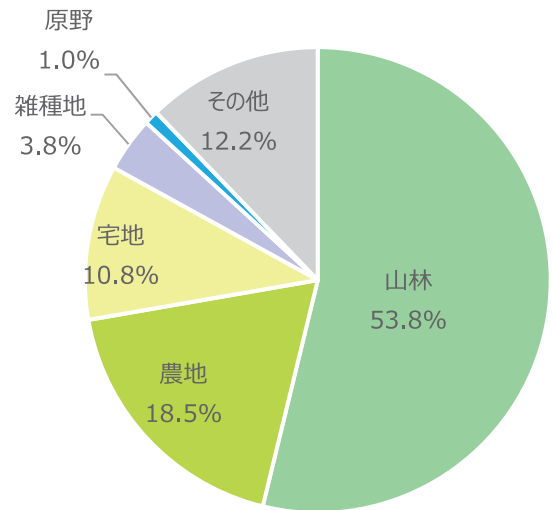
また、工業団地は、全ての分譲が完了し、環境や景観に配慮したまちなみが形成されています。

市街化調整区域*を含めた本町土地利用状況は、宅地が約 10%で、田や畑、山林などの自然的土地利用は約 70%となっています。

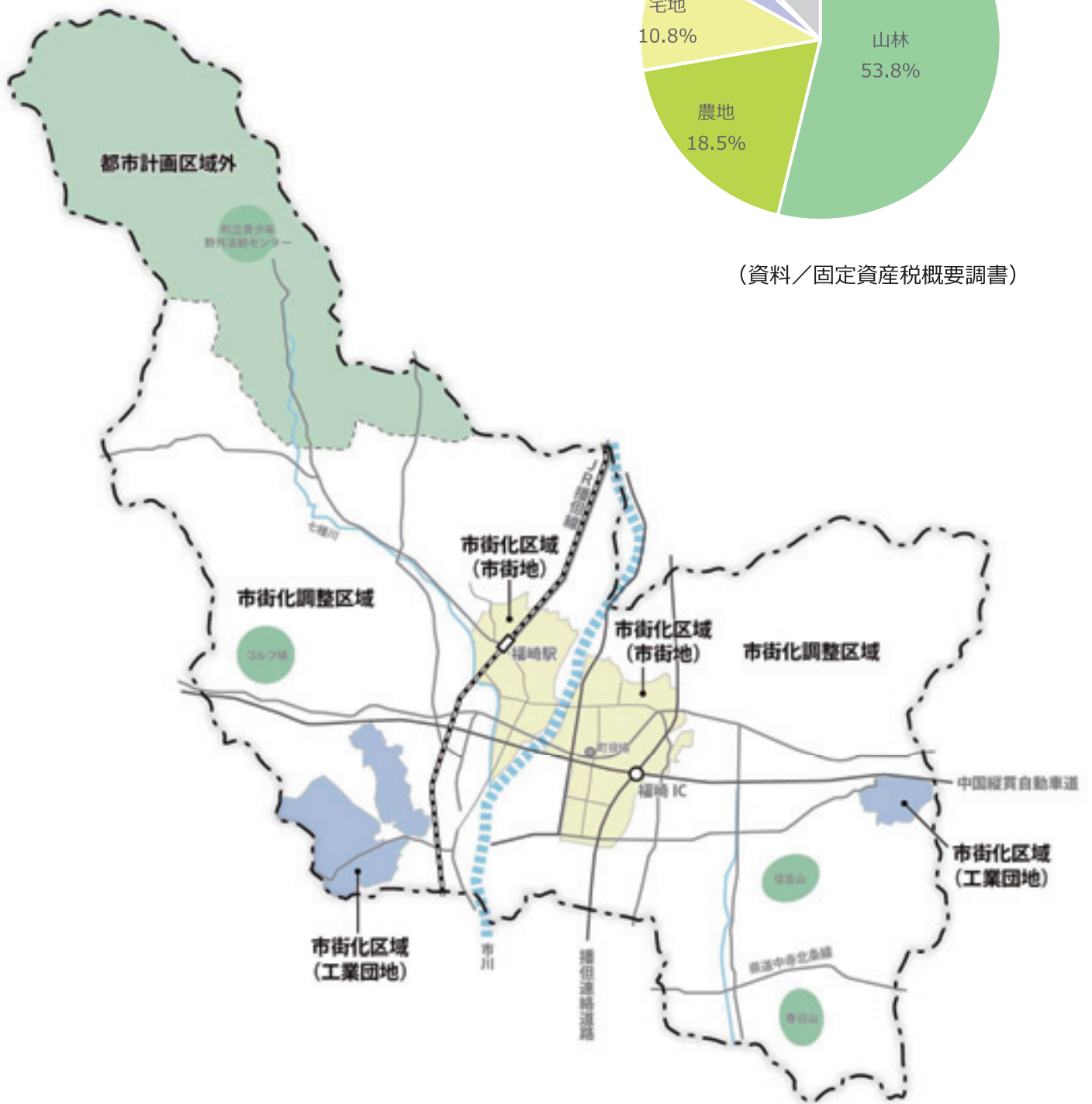
■ 用途地域*の指定状況（平成 28 年 3 月 31 日現在）

区分	面積 (ha)	割合 (%)	備考
都市計画区域	3,787	100.0%	
市街化区域	425	11.2%	
第 1 種低層住居専用地域	13	0.3%	北野地区
第 2 中高層住居専用地域	95	2.5%	
第 1 種住居地域	65	1.7%	
第 2 種住居地域	25	0.7%	県道三木穴粟線沿道
近隣商業地域	10	0.3%	駅前地区、新町地区、辻川地区
準工業地域	69	1.8%	
工業専用地域	148	3.9%	西部工業団地、東部工業団地
市街化調整区域	3,362	88.8%	

■ 土地利用現況



(資料/固定資産税概要調査)



2-3. 市街化の動向

本町には人口集中地区（DID）*はありませんが、人口密度は福崎駅前地区で高く、約 20ha が防災再開発促進地区*に指定されています。

宅地面積は、昭和 46 年の区域区分*以降で 2 倍以上に達し、平成 26 年には約 493ha となり、全体面積 4,579ha の 10.8%となっています。（資料編参照）

昭和 40 年と平成 26 年の中心部の建築物分布を見ると、田原地区では中国縦貫自動車道及び播但連絡道の開通に加え、県道三木穴栗線や町道中島井ノ口線沿線に役場庁舎や金融機関、物品販売店舗などの進出が進んだことや、住宅地開発に伴う専用住宅の増加が確認できます。福崎駅前地区や新町地区は、昭和 40 年当時から建物の集積が確認できます。その後、土地区画整理*などは実施されなかったため現在でも状況に大きな変化はなく、老朽木造建物が密集している状態です。

また、全国的に少子・高齢化の進展に伴って空き家が増加するなか、平成 27 年 5 月に空家等対策に関する特別措置法が施行され、本町も平成 26 年度から各自治会に依頼し、空き家調査を実施しています。その結果、平成 26 年度は 285 軒、平成 27 年度は 317 軒の空き家が報告されました。（資料編参照）

その内訳は、市街化区域が 113 軒、市街化調整区域*が 198 軒、都市計画区域外が 6 軒となっています。

なお、市街化調整区域*では、厳しい建築制限の下で農家住宅など以外の開発行為は原則禁止されてきましたが、平成 14 年に兵庫県が特別指定区域制度*を導入し、一定の緩和が図られました。本町では、西大貫地区が平成 16 年 6 月に指定し、平成 19 年 1 月には町内全域で指定しました。

平成 28 年 3 月時点の実績は約 130 軒（平均約 15 軒/年）で、市街化調整区域*集落の活力維持に一定の効果を発揮しています。

■ 福崎町中心部建築物分布図（昭和40年）



■ 福崎町中心部建築物分布図（平成26年）

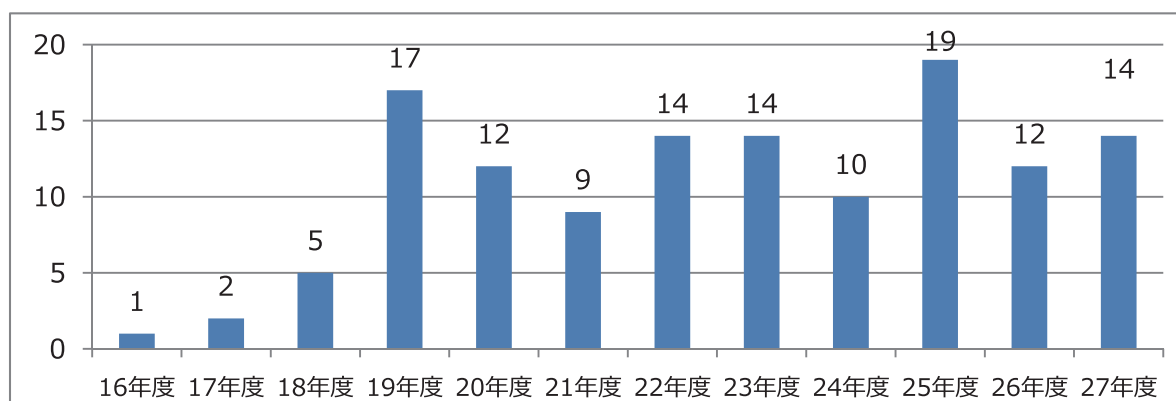


●特別指定区域制度*による建築実績（新築）

◎町土地利用基本計画（平成19年1月9日指定）

※西大貫地区は地区土地利用計画（平成16年6月11日指定）

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
軒数	1	2	5	17	12	9	14	14	10	19	12	14



●地区別・集落別実績

地区名	集落名	集落計	地区計
田原地区 11集落	長目	4	34
	中島	5	
	西光寺	7	
	八反田	0	
	吉田	2	
	西野（野）	0	
	井ノ口	5	
	北野	2	
	大門	6	
	加治谷	3	
	亀坪	0	
八千種地区 7集落	南大貫	3	38
	東大貫	2	
	西大貫	11	
	西大貫（新規）	1	
	余田	8	
	小倉	2	
	庄	8	
	鍛冶屋	3	
福崎地区 10集落	馬田（出屋敷）	0	57
	山崎	19	
	福田	9	
	板坂	1	
	桜	5	
	長野	4	
	神谷	4	
	西谷	3	
	西治	7	
	高橋	5	
計28集落	合計	129	129

2-4. 産業

平成 22 年の国勢調査による総就業者数は 9,346 人で、総人口の 47.1%を占めています。また、昭和 50 年以降、総就業者数は増加傾向を示していましたが、平成 17 年から 22 年にかけては減少しています。しかしながら、平成 22 年国勢調査による本町の昼間人口は 22,069 人で、夜間人口 19,830 人を超過しています。昭和 60 年以降は、流入人口が流出人口を上回っており、これは工業団地等への企業立地が進んだことで、町内に就業の場が拡大されてきたためと考えられます。また、昼間人口比率については、111.8%と県内で最も高い数値となっています。（資料編参照）

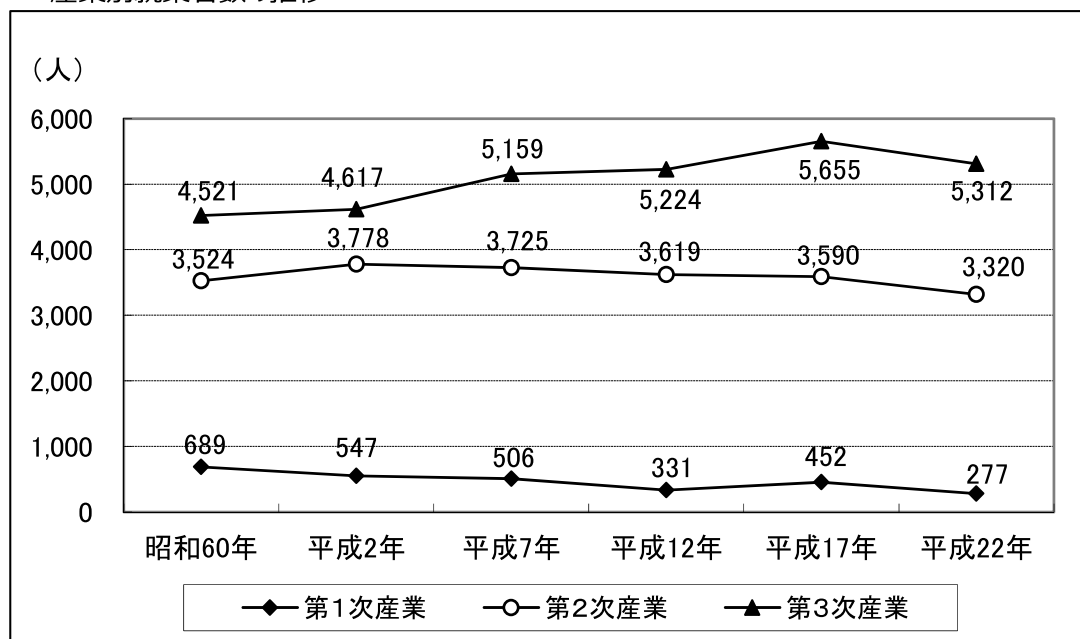
■ 産業別就業者数の推移

(単位：人、() 内%)

	平成12年	平成17年	平成22年
総人口	9,214	9,763	9,346
第1次産業	331	452	277
	(3.6)	(4.6)	(3.0)
第2次産業	3,619	3,590	3,320
	(39.3)	(36.8)	(35.5)
第3次産業	5,224	5,655	5,312
	(56.7)	(57.9)	(56.8)
総人口	19,582	20,669	19,830
就業率 (%)	47.1	47.2	47.1

(資料/国勢調査)

■ 産業別就業者数の推移



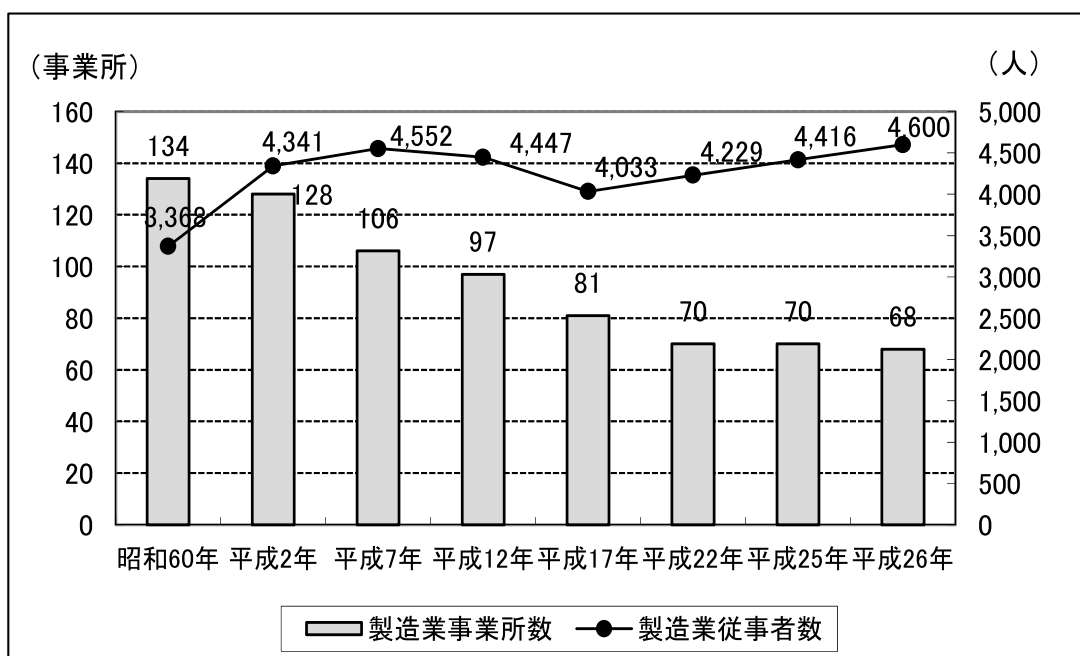
(資料/国勢調査)

(1) 工業

全体の傾向としては、福崎工業団地が稼働した昭和45年以降、多くの優良企業が進出してきましたが、事業所数は減少傾向から横ばい、従業者数は平成17年に大きく落ち込みましたが、その後は、増加傾向にあります。製造品出荷額は景気に大きく左右されますが、概ね1,800億円から2,000億円の間で推移しています。

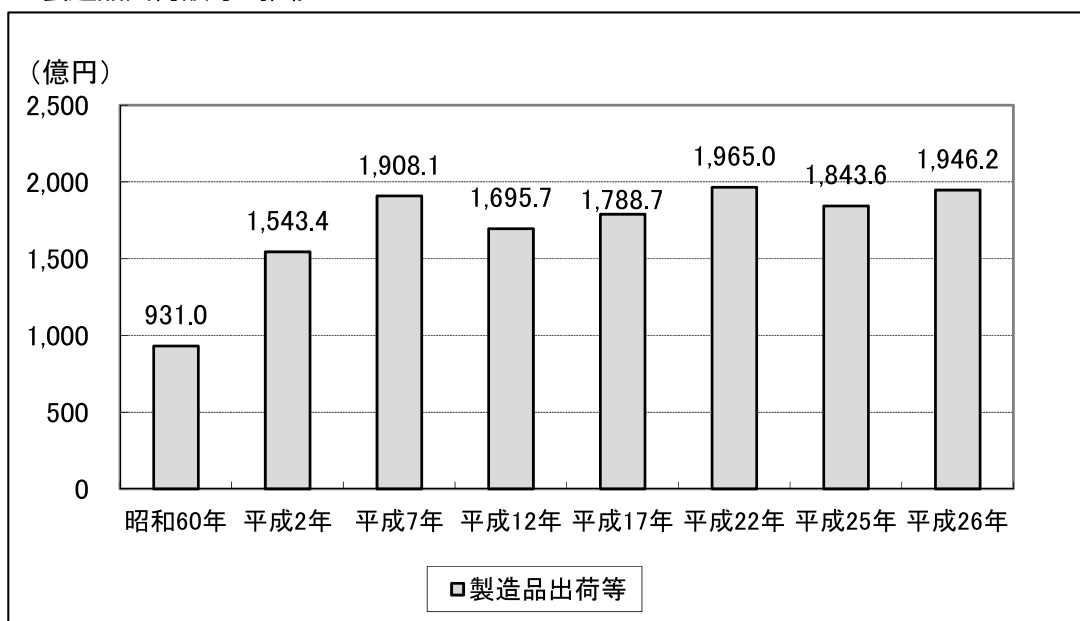
また、業種別に従業者が多い業種は、平成26年実績では電気機械器具が最も多く、次いで金属製品、化学工業、一般機械器具の順になっています。

■ 製造業事業所数・従事者数の推移



(資料/工業統計調査)

■ 製造品出荷額等の推移



(資料/工業統計調査)

■ 工業団地開発の歴史（資料編参照）

1968年（昭和43年）	4月	福崎工業団地第1次造成工事着手
1969年（昭和44年）	4月	福崎工業団地分譲開始
1970年（昭和45年）	9月	立地企業操業開始
1981年（昭和56年）	3月	福崎工業団地第4次造成工事完了（1～4次開発面積約83ha）
1990年（平成2年）	3月	福崎工業団地第5次造成工事着手
1990年（平成2年）	9月	福崎工業団地第5次造成工事完了（開発面積約1.5ha）
1993年（平成5年）	6月	福崎企業団地造成工事着手
1993年（平成5年）	9月	福崎工業団地第6次造成工事着手
1994年（平成6年）	12月	福崎工業団地第6次造成工事完了（開発面積約17.5ha）
1995年（平成7年）	11月	福崎企業団地造成工事完了（開発面積約34.4ha）
1995年（平成7年）	12月	福崎町東部工業団地造成工事着手
1997年（平成9年）	11月	福崎町東部工業団地造成工事完了（開発面積約34.5ha）
2014年（平成25年）	8月	福崎町工業団地・福崎企業団地分譲完了

（資料／地域振興課）



福崎工業団地・福崎企業団地



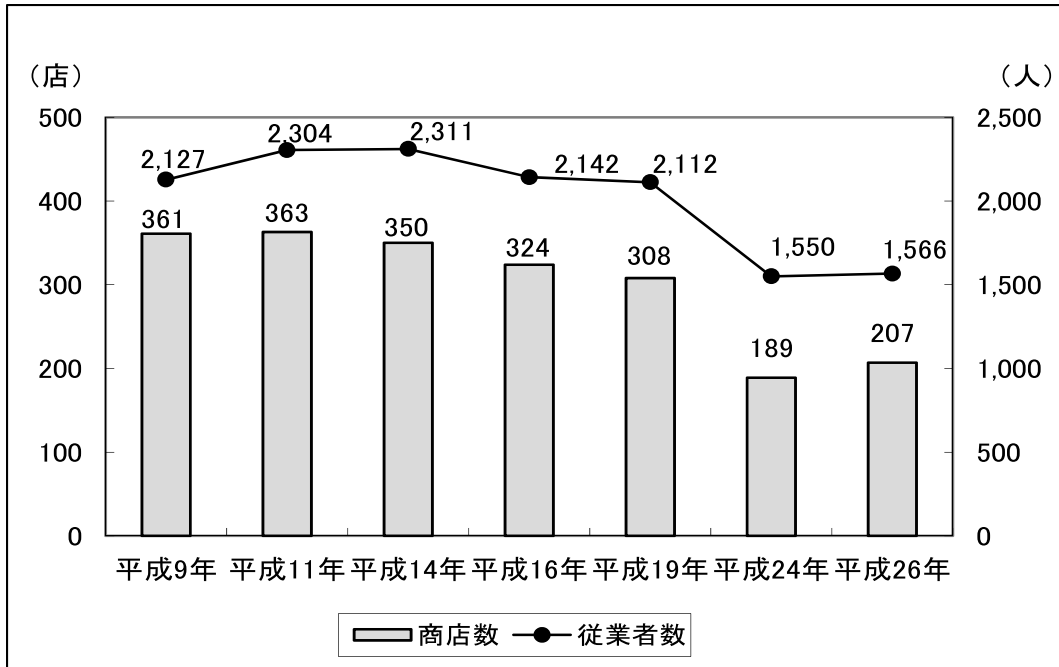
福崎町東部工業団地



(2) 商業

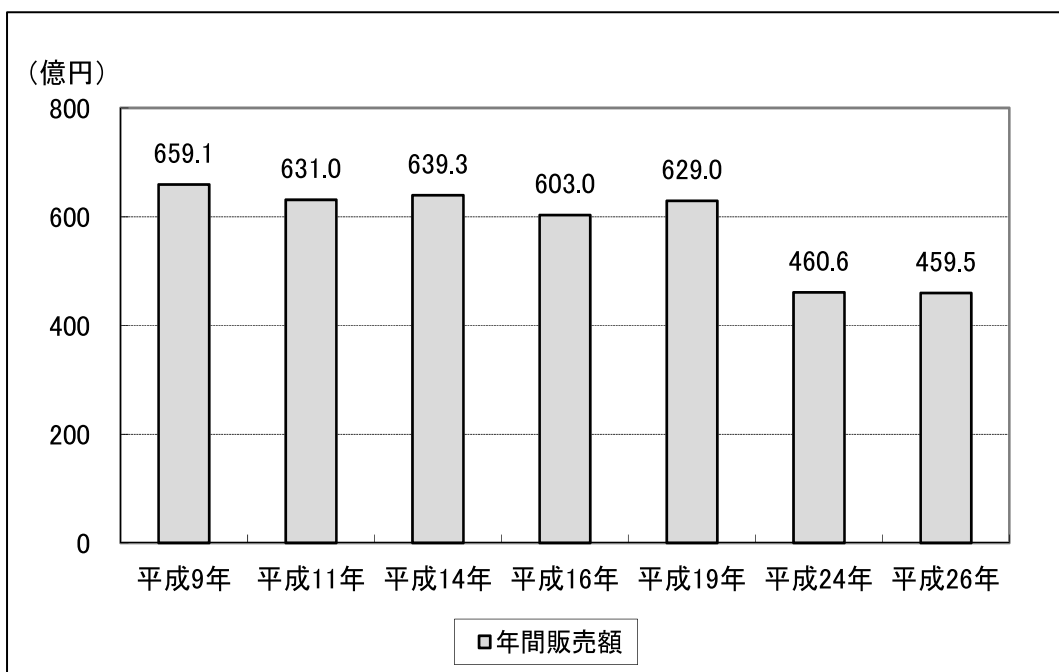
商業については、旧来からの福崎駅前商店街や新町及び辻川地区で、小規模な住宅併用店舗により経営されていますが、経営者の高齢化や後継者不足、店舗の魅力低下等により商業力が低下しており、道路が狭く、歩道や駐車場も不十分で衰退の状況にあります。

■ 商店数・従事者数の推移



(資料／商業統計調査)

■ 年間商品販売額の推移



(資料／商業統計調査)

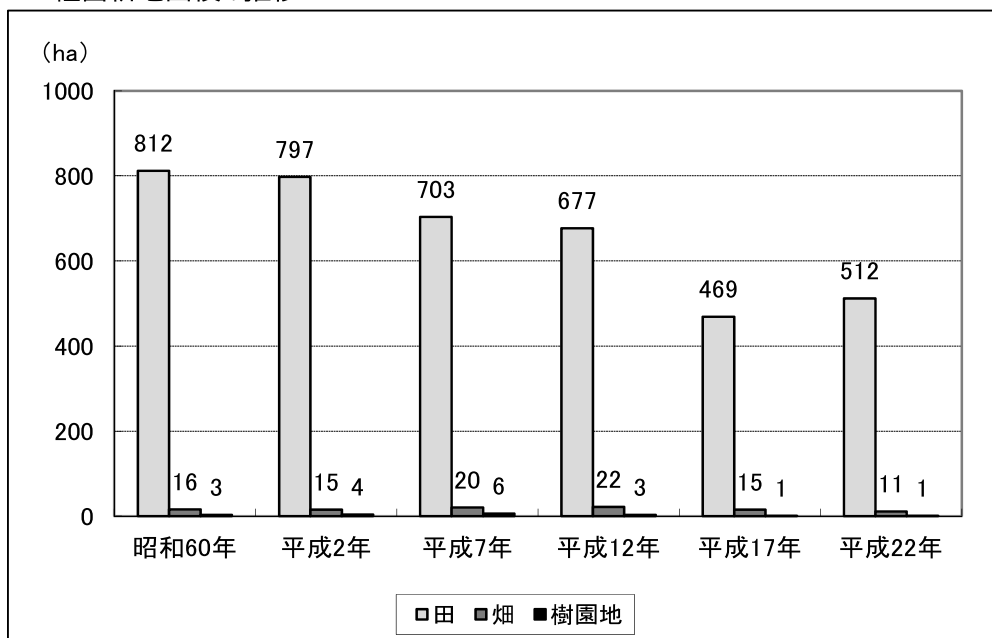
(3) 農業

本町の農地は、水田の割合が高く、米作を中心とした第2種兼業農家が大半を占めています。市街化調整区域*の農業振興区域内では、これまでに19集落では場整備を実施しており、平成28年3月31日時点で農振農用地の水田面積約615haの内、約60.5%にあたる372.1haが完了しています。(資料編参照)

経営耕地面積は、昭和60年から継続して減少の傾向にあり、25年間で、約6割に減少し、面積合計では、831haから524haになっています。

また、特産のもち麦の耕作地は、もちむぎ商品の需要拡大などにより拡大傾向にあります。

■ 経営耕地面積の推移



(資料/農林業センサス)

■ 年度別もち麦の作付面積

年度産	23	24	25	26	27	28
作付面積 (ha)	16.0	9.3	9.4	24.0	34.1	45.0

(資料/農林振興課)

2-5. 交通・道路等

(1) 交通

本町の公共交通機関には、鉄道と路線バス及びコミュニティバス*があります。

鉄道は姫路市と但馬地域を結ぶ JR 播但線が、町の中央を南北方向に走っています。平成 10 年 3 月に電化・高速化が実現し、大学の開学も影響あって一時的に利用が増えましたが、平成 17 年をピークに減少傾向にあり、現在の乗車人員は年間約 61.7 万人（日平均 1,690 人）となっています。

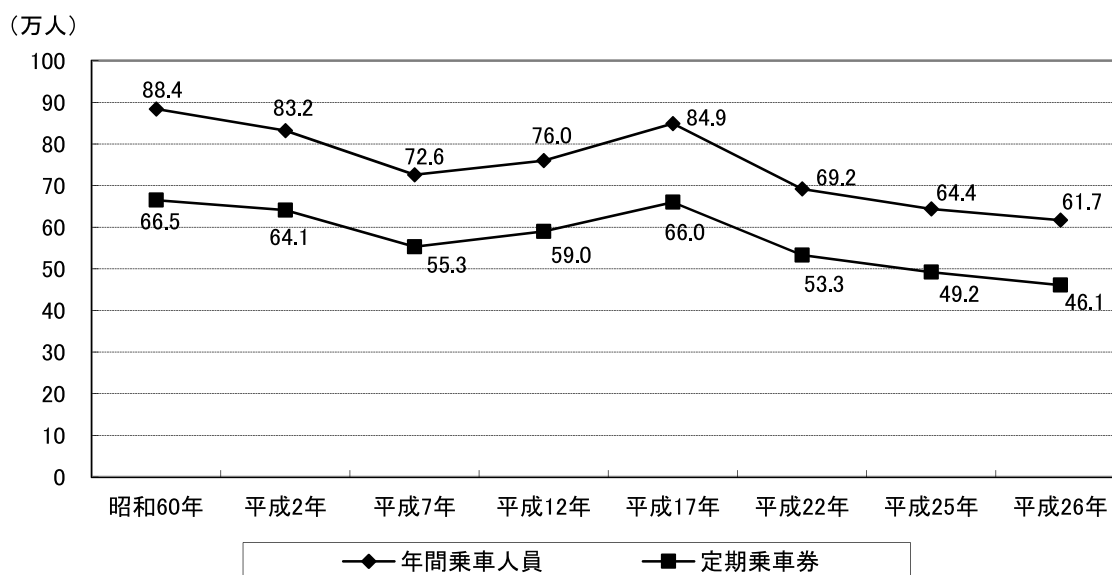
（資料編参照）

バスは、神姫バスの JR 福崎駅と姫路駅を結ぶ路線と、加西市北条町駅と姫路駅を連絡し町東部地域を經由する路線があります。また、中国自動車道を利用した大阪市・津山市間を結ぶ高速バスが、福崎インターチェンジを經由して運行しています。なお、神姫バスの瀬加・福崎線、粟賀・福崎線及び全但バスの阪急三宮・城崎温泉線の福崎停留所は、平成 20 年以降順次廃止となっています。

地域公共交通網が不足しているため、コミュニティバス*としてサルビア号を運行して、バス交通不便地域の解消を図るとともに、高齢者等の移動手段を確保しています。

■ JR 播但線福崎駅乗車人員の推移

（資料／JR 西日本福崎駅）



■ 路線バス運行状況（平成 26 年 9 月 1 日現在）

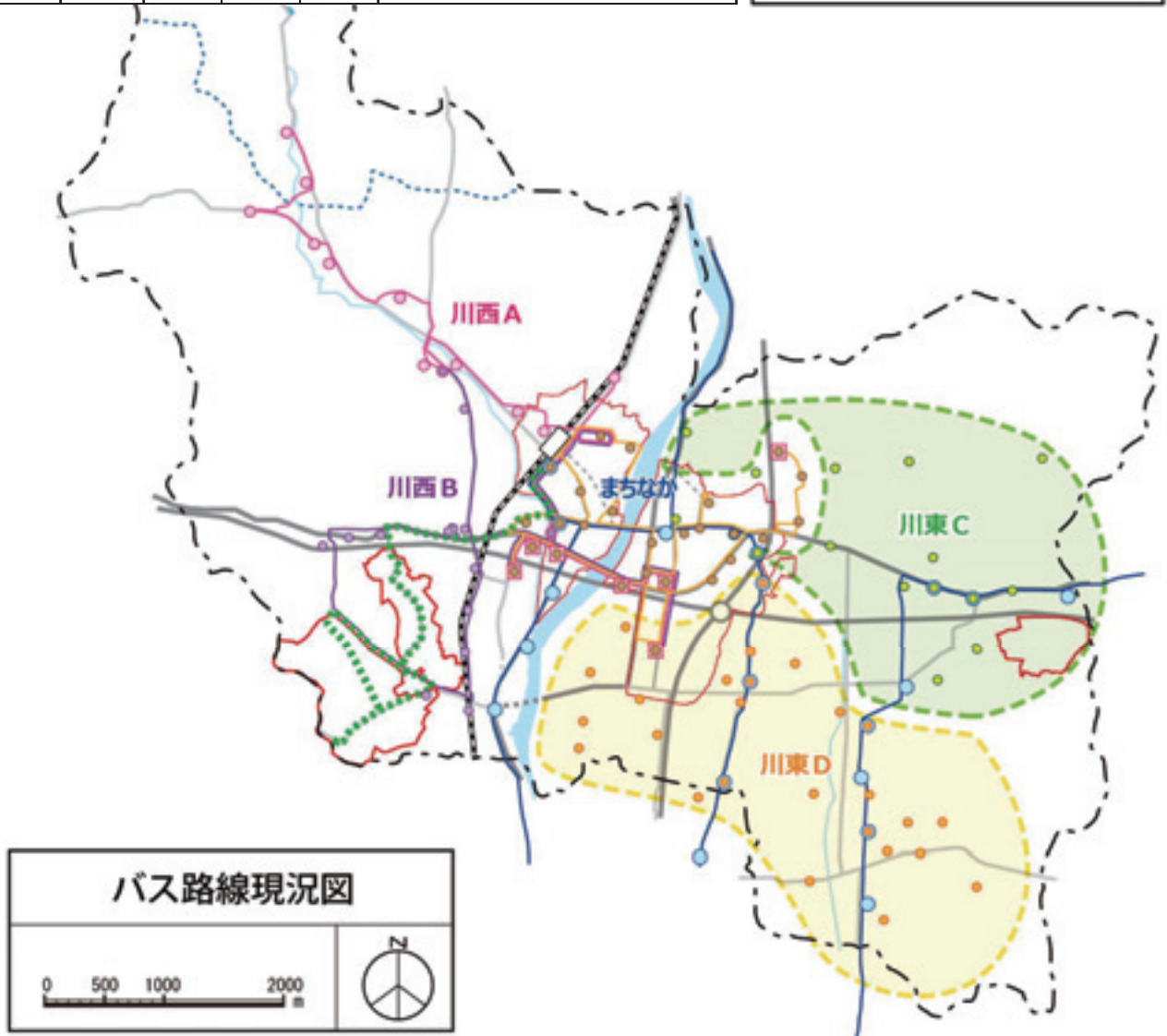
（資料／神姫バス）

上り				下り				備考
発	経由	行	本数 (土・日・祝)	発	経由	行	本数 (土・日・祝)	
福崎	国道 312 号	姫路	4 (4)	姫路	国道 312 号	福崎	4 (4)	神姫バス
福崎	西光寺	姫路	4(3)	姫路	西光寺	福崎	4(2)	〃
北条	大貫	姫路	8(8)	姫路	大貫	北条	8(5)	〃
津山	中国道 (福崎 I C)	大阪	13	大阪	中国道 (福崎 I C)	津山	13	JR バス・ 神姫バス
津山	中国道 (福崎 I C)	ユニバーサル スタジオ	1	ユニバーサル スタジオ	中国道 (福崎 I C)	津山	0	J R バス

■ 福崎町巡回バス・コミュニティバスの歴史 (資料/健康福祉課)

年度	利用者 合計 (人)	対前 年比 (%)	日 平均 (人)	運行 日数 (日)	備考
H11	10,584		30	348	4/14運行開始 (福祉バス)
H12	12,416	117.3	35	359	
H13	14,321	115.3	40	359	
H14	14,911	104.1	42	359	
H15	14,405	96.6	40	360	
H16	14,770	102.5	41	359	
H17	15,047	101.9	42	359	
H18	15,631	103.9	44	359	
H19	15,097	96.6	42	360	
H20	15,209	100.7	42	359	
H21	14,667	96.4	41	359	
H22	12,778	87.1	36	359	
H23	12,283	96.1	34	360	
H24	11,397	92.8	34	338	12/3再編 (コミバスへ) まちなか便・郊外便
H25	13,009	114.1	44	294	
H26	14,573	112	49	296	4/1川西郊外便を定時定路線へ変更
H27	16,619	114.0	56	295	

凡 例	
路線バス停	● (青)
郊外バス停 (川西A)	● (桃)
郊外バス停 (川西B)	● (紫)
郊外バス停 (川東C)	● (黄緑)
郊外バス停 (川東D)	● (オレンジ)
まちなかバス停	● (茶)
郊外バス停 (川東)	■ (桃)
路線バス運行ルート	— (青)
まちなかバス運行ルート	— (黄)
郊外川西A 運行ルート	— (桃)
郊外川西B 運行ルート	— (紫)
社会実験バス運行ルート	⋯ (緑)



(2) 道路（国道・県道・町道）

本町には、地域を超えた広域的な人の移動や物流を支える広域交通ネットワークとして、東西方向には中国縦貫自動車道、南北方向には播但連絡道路があります。

また、市川により東西に分断されている市街地を結ぶ主な道路は県道三木穴粟線と国道 312 号の 2 路線となっています。これらの道路は、都市間を結ぶ主要な幹線道路ですが、福崎インターチェンジへ連絡する道路となっており、市街地内交通と通過交通*が混入し、交通量が多くなっています。

なお、町道の現況は下記のとおりです。

■ 国道の現況（平成 27 年 6 月 1 日現在） （資料／兵庫県道路保全課）

路線名	管理者	延長 (m)	舗装済 (m)	未舗装 (m)	舗装率 (%)
国道 312 号	兵庫県	3,971	3,971	0	100.0%
播但連絡道路	道路公社	3,387	3,387	0	100.0%
合計		7,358	7,358	0	100.0%

■ 県道の現況（平成 27 年 6 月 1 日現在） （資料／兵庫県道路保全課）

路線名	管理者	延長 (m)	舗装済 (m)	未舗装 (m)	舗装率 (%)
三木穴粟線	兵庫県	8,004	8,004	0	100.0%
西田原姫路線	兵庫県	2,221	2,221	0	100.0%
甘地福崎線	兵庫県	2,830	2,830	0	100.0%
田口福田線	兵庫県	5,710	4,950	760	86.7%
前之庄市川線	兵庫県	5,678	4,517	1,161	79.6%
中寺北条線	兵庫県	2,710	2,710	0	100.0%
合計		27,153	25,232	1,921	92.9%

■ 町道の現況（平成 27 年 6 月 1 日現在） （資料／まちづくり課）

区分	1 級	2 級	その他	計
路線数 (本)	16	191	555	762
実延長 : A (km)	32.5	15.3	201.8	249.4
改良済延長 : B (km)	26.9	11.1	86.7	124.7
B/A (%)	82.8	72.5	43.0	50.0

(3) 都市計画道路*

都市計画道路*は、昭和 51 年と 56 年に 7 路線 計画総延長 15,690mを都市計画決定*しましたが、「都市計画道路網見直しガイドライン（兵庫県 H23.3 策定）」に基づき、都市計画道路*のうち未着手となっている区間を対象に、都市計画決定*存続の必要性を検証し、平成 27 年 3 月に旧高橋山崎線、辻川田尻線、大門福田線の一部を廃止しました。これにより現在の都市計画道路*は、6 路線、延長約 11.4kmとなっています。このうち、概成区間を含む整備済区間の延長は約 9.4 k mで 82.8%です。

■ 都市計画道路の現況（平成 28 年 3 月 31 日現在） （資料／まちづくり課）

No	番号	路線名	計画幅員 (m)	①	②	③	④	④／①
				計画延長 (m)	改良済 (m)	概成済 (m)	(②+③) (m)	
1	3.4.24	福崎駅田原線	16	1,050	0	310	310	29.5%
2	3.4.25	高橋西治線	16	1,830	720	610	1,330	72.7%
3	3.4.250	大門西治線	18	3,340	0	3,340	3,340	100.0%
4	3.4.651	西光寺高橋線	16	2,630	1,350	870	2,220	84.4%
5	3.4.652	辻川北野線	16	560	250	0	250	44.6%
6	3.4.653	中島井ノ口線	16	1,980	1,980	0	1,980	100.0%
計				11,390	4,300	5,130	9,430	82.8%

■ 都市計画道路網図



2-6. 公園・緑地*

(1) 都市計画公園

本町は、1公園、面積2.6haを平成9年1月に都市計画決定*しています。

近隣公園	福崎町市川河川公園	2.6ha
------	-----------	-------

(資料/まちづくり課)

(2) 公園等の一覧

本町の公園等一覧は下記のとおりです。

■ 公園等一覧

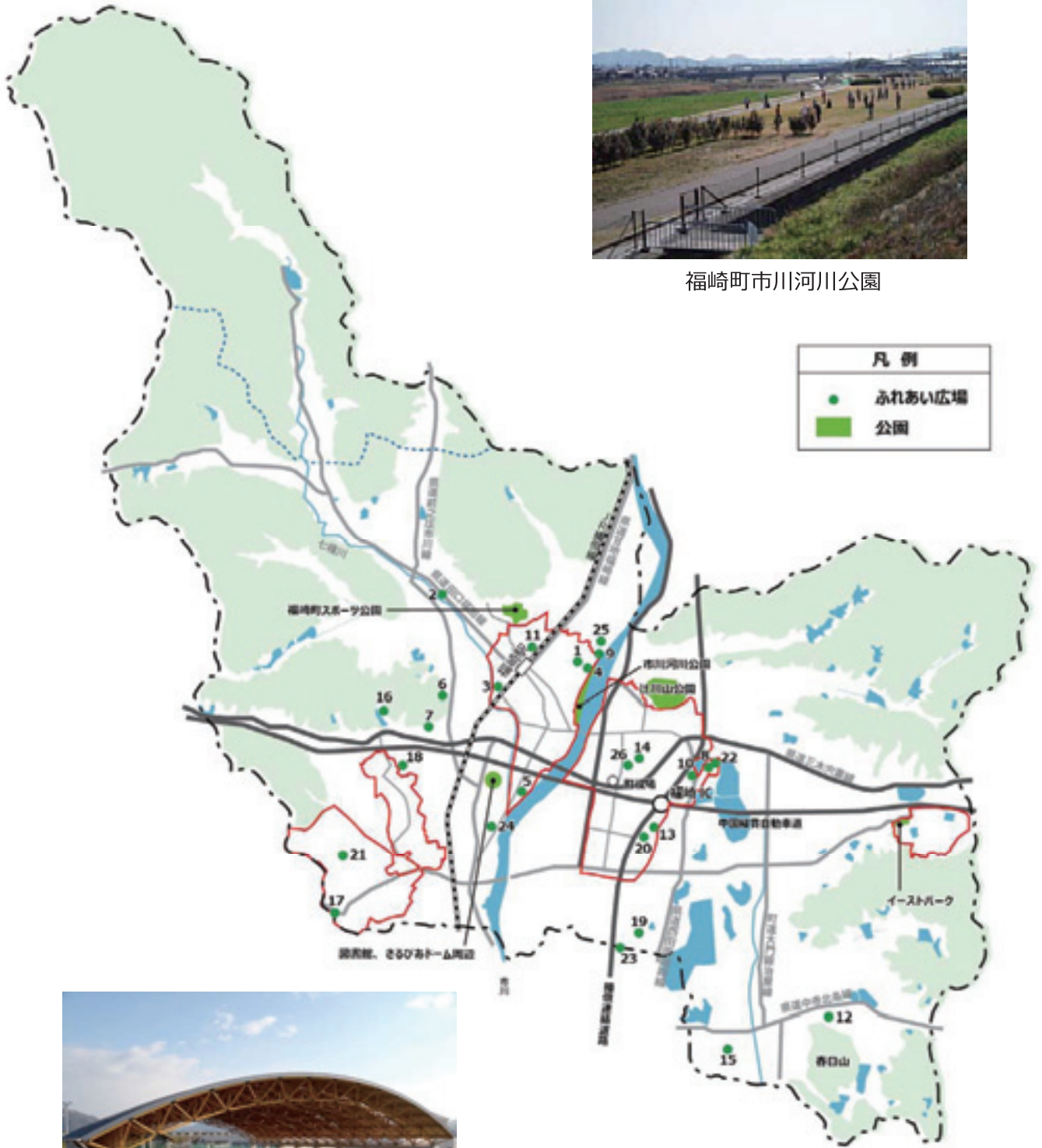
分類	No	施設名	所在地	面積(ha)
ふれあい 広場	1	駅前児童ふれあい広場	福田 167-1	0.14
	2	桜児童ふれあい広場	福田 996-18	0.13
	3	野添ふれあい広場	福田 470-13	0.02
	4	竹ノ元ふれあい広場	馬田 2-19	0.02
	5	角田ふれあい広場	福崎新 329-25	0.02
	6	北ノ岡第一ふれあい広場	西治 1492-109	0.11
	7	北ノ岡第二ふれあい広場	西治 1492-110	0.04
	8	鐘イバふれあい広場	東田原 1038-96	0.06
	9	東田黒ふれあい広場	福田 141-7	0.01
	10	谷田ふれあい広場	西田原 1882-7	0.03
	11	駅前ふれあい広場	福田 219-1	0.04
	12	牛房谷ふれあい広場	八千種 2025-28	0.01
	13	東水田ふれあい広場	西田原 1978-17	0.01
	14	辻ノ前第一ふれあい広場	西田原 1633-7	0.01
	15	玉屋ふれあい広場	八千種 4089-15	0.02
	16	県民ふれあい広場	西治 1545	1.18
	17	桧谷ふれあい広場	高橋 451-7	0.53
	18	宮の丘ふれあい広場	西治 1101-1	1.16
	19	高野ふれあい広場	南田原 1133-5	0.04
	20	仁王下ふれあい広場	南田原 1993-26	0.02
	21	高橋ふれあい広場	西治 860-9	0.81
	22	サクラ池ニュービレッジふれあい広場	東田原 1039-9	0.03
	23	ディアタウン南田原ふれあい広場	南田原 1122-1	0.02
	24	サルビアサンワタウンふれあい広場	西治 46-3	0.02
	25	ブライツヒルズ福崎駅前ふれあい広場	福田 140-6	0.02
	26	辻ノ前第二ふれあい広場	西田原 1620-18	0.02
その他の 公園	1	第一グラウンド	西田原 845	1.02
	2	第二グラウンド	西田原 1460	0.58
	3	第三グラウンド(さるびあドーム等)	西治 284-3	0.87
	4	スポーツ公園	福田 1094-48	3.59
	5	辻川山公園	西田原 1031	0.21
都市公園*	1	市川河川公園	福崎新 3-2 地先	2.52
	2	イーストパーク	大貫 972-1	1.06

(資料/まちづくり課・社会教育課)

■ 公園・緑地*の現況図



福島町市川河川公園



さるびあドーム

2-7. 上水道・下水道

(1) 上水道

上水道は、昭和 46 年 4 月に上水道事業に移行し、拡張工事を経て、現在の計画給水人口は 19,400 人、計画一日給水量 10,000m³、水道普及率 99.5%となっています。

現在の水道を取り巻く環境は、「普及・拡大」から「維持・更新」へと移り変わっています。本町では、下水道の面整備工事に合わせて老朽管の更新工事を順次行い、石綿管は全てなくなりました。

■ 上水道普及状況の推移

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
行政区域内人口 (人)	19,645	19,629	19,543	19,522	19,608
給水人口 (人)	19,546	19,530	19,445	19,424	19,510
給水人口率 (%)	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%	99.5%
1 日平均使用水量 (m ³ /日)	6,881	6,797	6,655	6,553	6,551
生活用 (m ³ /日)	4,562	4,553	4,520	4,421	4,434
業務営業用 (m ³ /日)	1,734	1,605	1,480	1,452	1,480
工場用 (m ³ /日)	585	639	655	680	637

(資料/上下水道課)

(2) 下水道

下水道は、コミュニティプラント*、農業集落排水については、計画していた処理区すべての整備が完了し稼働しています。公共下水道についても、福崎浄化センターでは、一層の環境保全に努めるため全国で初めて膜を利用した高度処理方式（凝集剤併用型膜分離活性汚泥方式）を採用し、平成 17 年 3 月に供用を開始しました。平成 28 年 3 月に全ての区間で整備が完了し、供用を開始しています。

■ 福崎町公共下水道の概要

(資料/上下水道課)

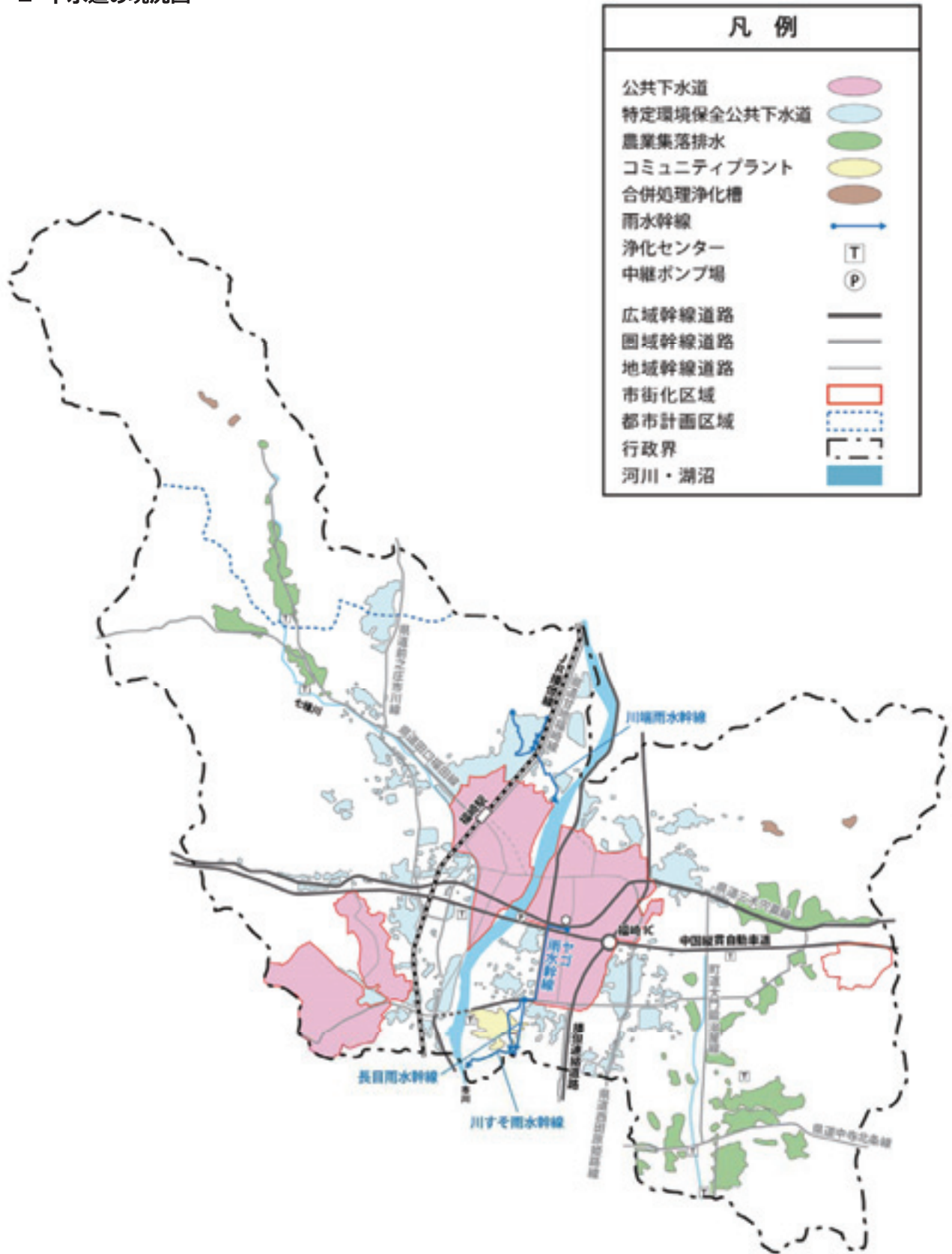
項目	計画諸元	備考
汚水計画		
計画目標年次	平成 33 年	
汚水処理区域	約 675 ha	市街化区域（東部工業団地を除く）、周辺集落
処理人口	17,300 人	
処理水量	12,600 m ³ /日	処理能力・日 最大
雨水計画		
排水区域	308 ha	市街化区域の浸水に關与する既存集落

■ 公共下水道の接続状況

(資料/上下水道課)

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
総戸数	4,406	4,716	4,994	5,078	5,269
接続戸数	2,715	2,964	3,182	3,486	3,727
接続率 (%)	61.6	62.8	63.7	68.6	70.7

■ 下水道の現況図

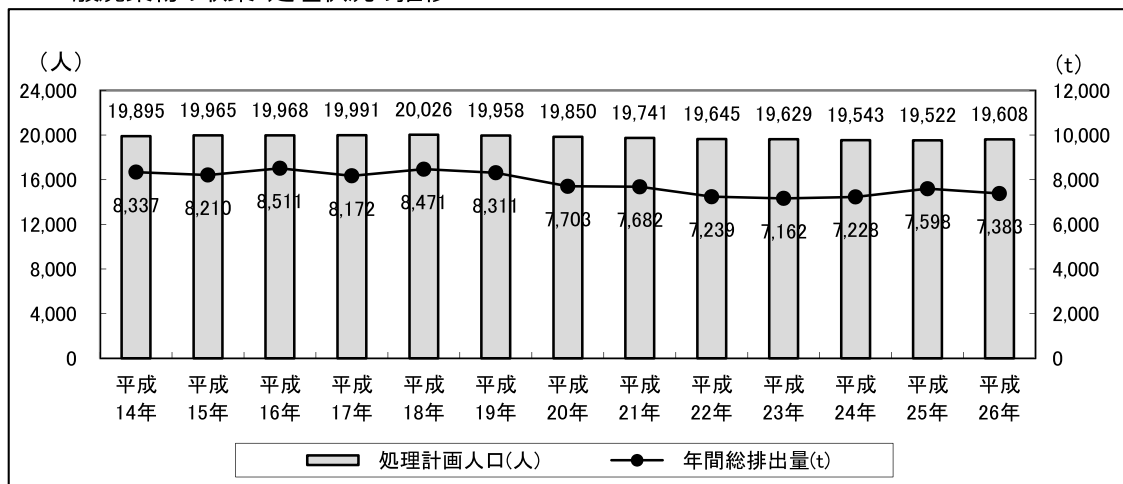


2-8. その他処理施設

(1) ゴミ処理

「福崎町一般廃棄物処理計画」に基づき、循環型社会の構築を目指してごみの減量化を進めています。平成26年度の一般廃棄物の年間総排出量は、7,383tで、平成20年以降ごみの排出量は減少傾向にあります。

■ 一般廃棄物の収集・処理状況の推移

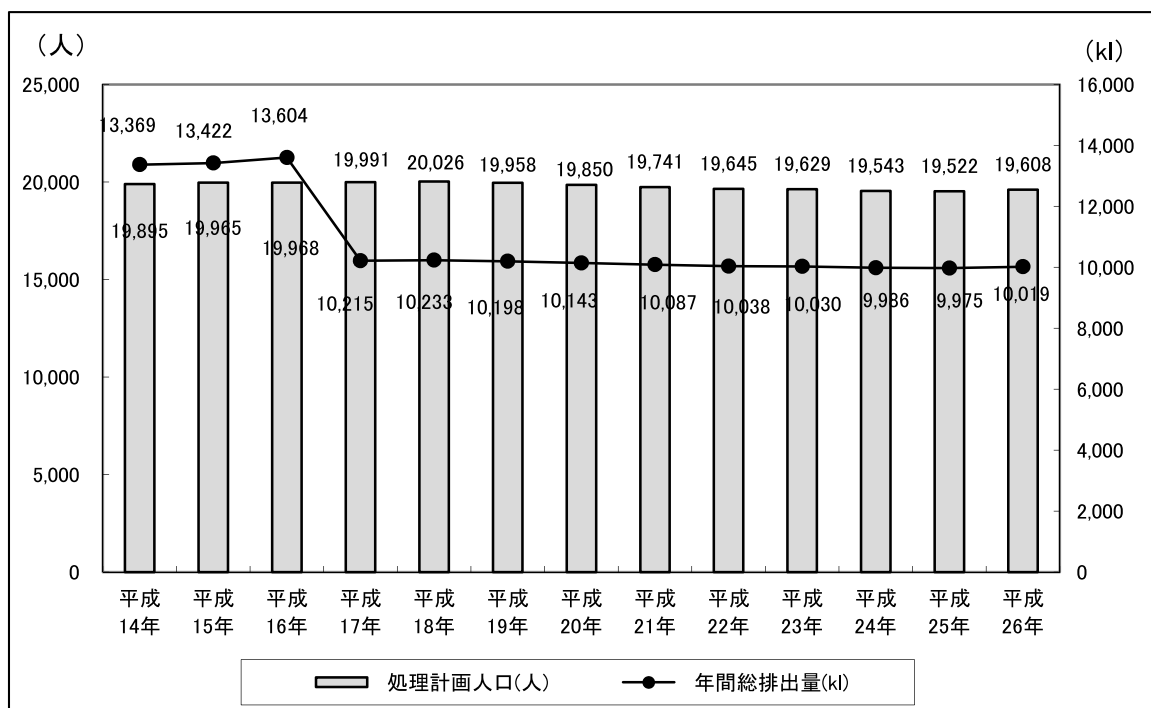


(資料/住民生活課)

(2) し尿処理

し尿については、下水道の普及にともない、平成26年の年間約10,000klの総処理量に対して、し尿のみとり量収集量は1,498kl、浄化槽汚泥の収集量は5,098klで、計6,596klと毎年減少しています。

■ し尿処理量の推移



(資料/住民生活課)

2-9. 公共施設

役場庁舎を中心に官公署施設や教育施設に加え、児童や老人のための福祉施設や、福崎町立柳田國男・松岡家記念館や文化センター等の文化施設、福崎町エルデホール、さるびあドームなど多数の公共施設を有しています。（資料編参照）

■ 主な公共施設の位置図



2-10. 観光資源

本町は、文化勲章を受章した民俗学の父・柳田國男と船舶工学の権威である吉識雅夫をはじめとして、医師・地方政治家の松岡鼎、眼科医・国文学者の井上通泰、軍人・言語学者の松岡静雄、日本画家の松岡映丘など、多くの文化人を輩出しています。

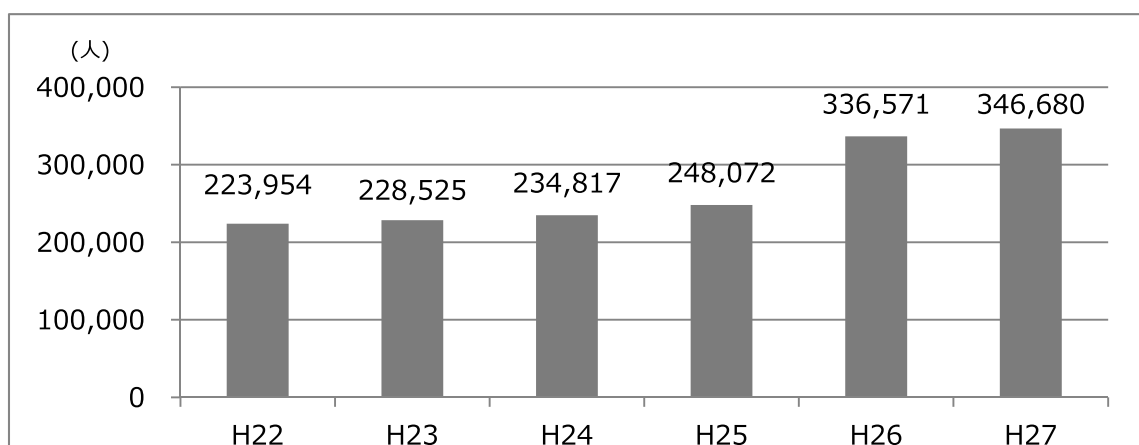
町内には柳田國男生家や兵庫県指定文化財である大庄屋三木家住宅、国の指定重要文化財となっている木造薬師如来坐像を安置した神積寺などの歴史的な観光資源が数多くあります。

(資料編参照)

また、近年、柳田國男の著書にあやかって設置した河童像が脚光を浴び、年間 30 万人を超える観光客入込数となっています。

■ 福崎町観光客入込数の推移

(資料／地域振興課)

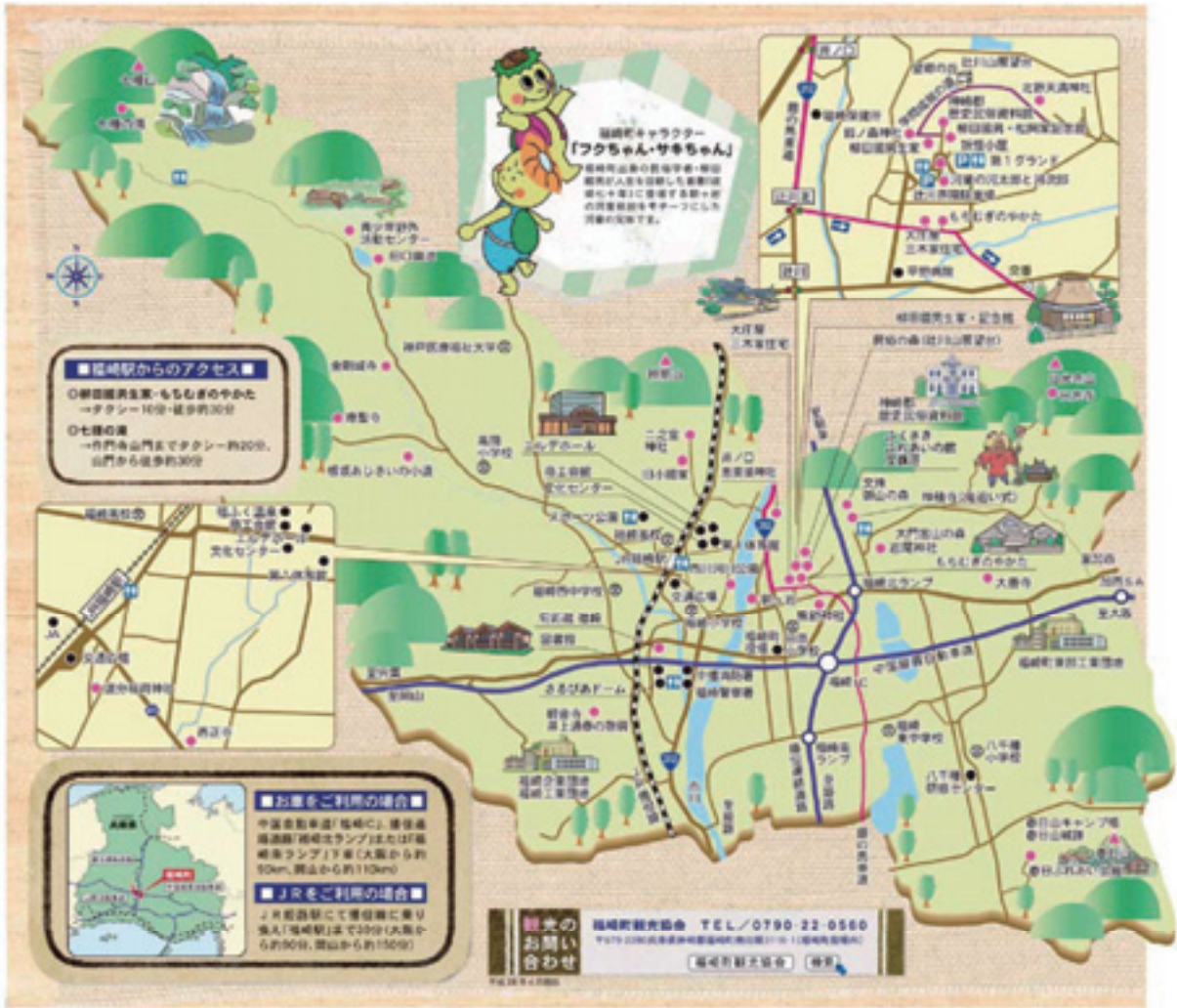


■ 福崎町内にある主な山一覧

(資料／地域振興課)

No	名称	よみがな	標高 (m)	地区 (行政区)	整備状況	備考
1	七種山	なぐさやま	683.0	高岡 (田口)	済	七種三山
2	薬師峯	やくしみね	616.2	高岡 (田口)	済	七種三山
3	七種槍	なぐさやり	577.3	高岡 (田口)	済	七種三山
4	日光寺山	にっこうじやま	408.6	田原 (亀坪)	済	
5	大倉山	おおくらやま	385.0	福崎 (西谷)	予定	
6	神前山	かむさきやま	333.5	福崎 (山崎)	済	
7	カラタチ山	からたちやま	322.0	田原 (加治谷)	済	
8	大師山	だいしやま	277.7	福崎 (福田)	予定	
9	高倉山	たかくらやま	257.4	八千種 (余田)	済	余田アルプス
10	住吉山	すみよしやま	200.4	八千種 (余田)	済	余田アルプス
11	春日山	かすがやま	197.9	八千種 (鍛冶屋)	済	
12	大門宮山	だいもんみやま	146.8	田原 (大門)	-	ふくさき三獅子山
13	妙徳山	みょうとくさん	140.2	田原 (加治谷)	-	ふくさき三獅子山
14	辻川山	つじかわやま	126.8	田原 (辻川)	済	ふくさき三獅子山

■ 福崎町観光マップ



登山・アウトドア

七穂の湯
伊豆半島の温泉地帯にあり、湯涌川に湧き出る天然の温泉。湯涌川に湧き出る天然の温泉。湯涌川に湧き出る天然の温泉。

青少年野外活動センター
自然の恵みを受け、山や川をフィールドに、心身を鍛錬し、仲間と交流する。自然の恵みを受け、山や川をフィールドに、心身を鍛錬し、仲間と交流する。

八千穂自然活用村
自然の恵みを受け、山や川をフィールドに、心身を鍛錬し、仲間と交流する。自然の恵みを受け、山や川をフィールドに、心身を鍛錬し、仲間と交流する。

民俗学のふるさと一辻川界隈

福崎町歴史民俗資料館
福崎町の歴史・文化を伝える。福崎町の歴史・文化を伝える。福崎町の歴史・文化を伝える。

福崎町歴史民俗資料館
福崎町の歴史・文化を伝える。福崎町の歴史・文化を伝える。福崎町の歴史・文化を伝える。

河津の河太郎七穂川
河津の河太郎七穂川。河津の河太郎七穂川。河津の河太郎七穂川。

四季を彩る自然の色

小豆の花
小豆の花。小豆の花。小豆の花。

アザミ
アザミ。アザミ。アザミ。

大分アザミ
大分アザミ。大分アザミ。大分アザミ。

もも
もも。もも。もも。

山に咲く
山に咲く。山に咲く。山に咲く。

フナエス
フナエス。フナエス。フナエス。

歴史と文化

日吉町
日吉町。日吉町。日吉町。

大森寺
大森寺。大森寺。大森寺。

神楽
神楽。神楽。神楽。

湯涌
湯涌。湯涌。湯涌。

湯涌温泉
湯涌温泉。湯涌温泉。湯涌温泉。

湯涌温泉
湯涌温泉。湯涌温泉。湯涌温泉。

2-11. 防災・減災

(1) 自然災害

昭和31年の福崎町合併以降の大きな自然災害は次のようになっています。

本町は、概ね瀬戸内海型の比較的穏やかな気候で、内陸型気候の影響を若干受ける地域となっています。もともと寒暖差が比較的大きな地域でしたが近年はゲリラ豪雨や局地的集中豪雨による土砂災害の発生が見られます。

■ 自然災害の概要

年月	概要
昭和38年6月	集中豪雨により北浦谷池決壊、農地・施設等に甚大な被害発生
昭和40年9月	台風23号と集中豪雨で七種川堤防決壊等の甚大な被害発生
昭和47年9月	集中豪雨による被害発生
昭和51年9月	台風17号と集中豪雨による被害発生
平成2年9月	台風19号と集中豪雨による被害発生
平成7年1月	阪神淡路大震災発生
平成16年8～10月	台風16、18、21、23号による被害発生
平成23年9月	台風12号による甚大な被害発生

(資料/町勢要覧)



■ 福崎町防災マップ

福崎町 防災マップ

土砂災害について

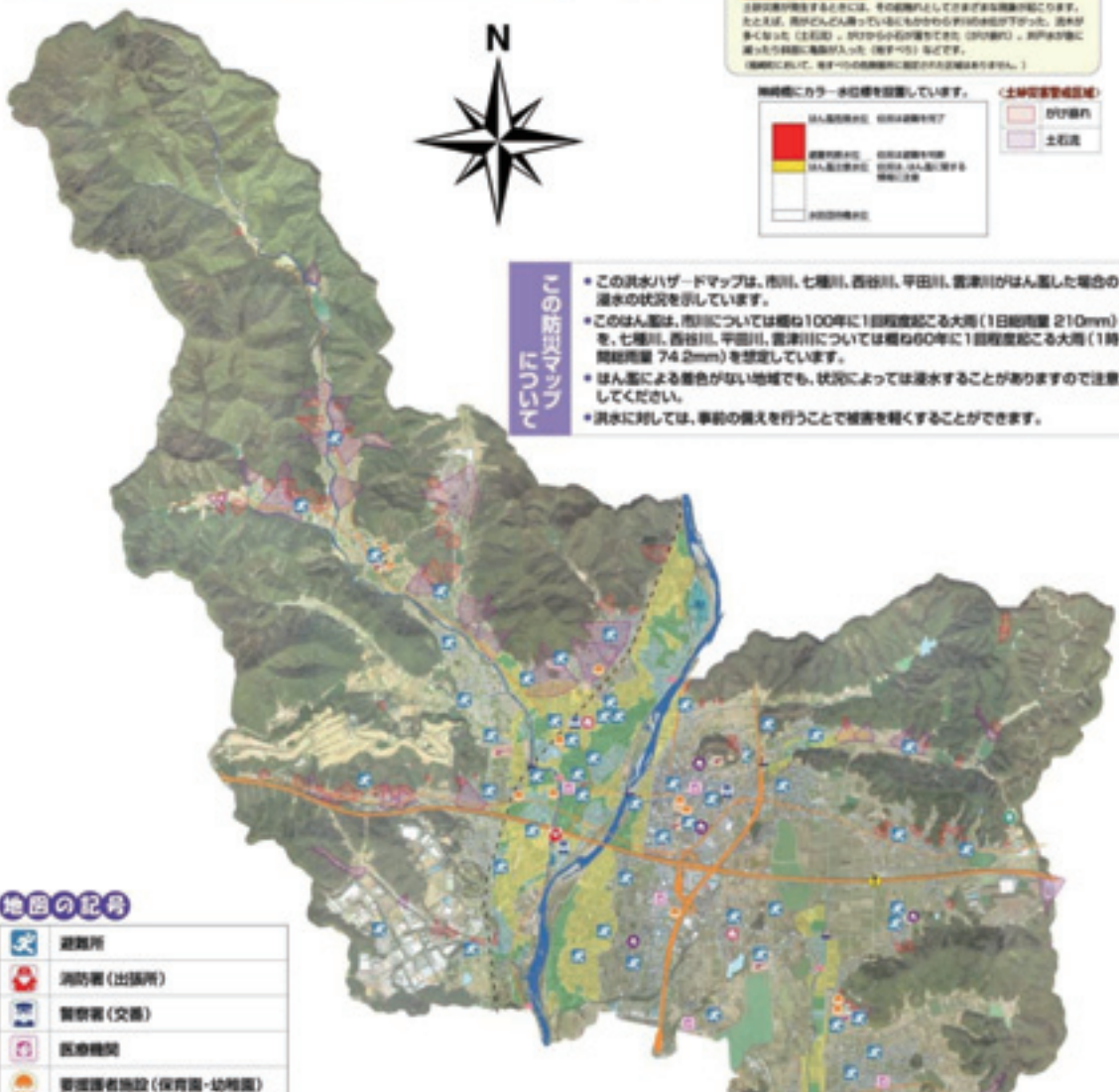
土石流

がけ崩れ

地すべり

ごんごん音が鳴る音!

土砂災害が発生する際には、その前兆としてさまざまな現象が起こります。たとえば、雨がごんごん鳴っているにもかかわらずお風呂の水が下がった、流木が多くなった（土石流）、家のからがらや壁がたがった（がけ崩れ）、お風呂の壁にゴツゴツとした音が鳴り出した（地すべり）などです。
（国土地理院において、地すべりの危険域に指定された地域はあります。）



ハザードマップについて

- この洪水ハザードマップは、市川、七瀬川、西谷川、平田川、宮津川がはん濫した場合の洪水の状況を示しています。
- このはん濫は、市川については概ね100年に1回程度超える大雨（1日総雨量 210mm）を、七瀬川、西谷川、平田川、宮津川については概ね60年に1回程度超える大雨（1時間総雨量 74.2mm）を想定しています。
- はん濫による着色がない地域でも、状況によっては浸水することがありますので注意してください。
- 洪水に対しては、事前の備えを行うことで被害を軽減することができます。

地図の記号

	避難所
	消防署（出張所）
	郵便局（支店）
	医療機関
	児童遊園施設（保育園・幼稚園）
	高齢者施設（高齢者施設）
	介護施設（福祉施設）
	アンダーパス（地下道）
	備蓄倉庫
	災害時用ヘリポート
	防災監視カメラ
	水位標
	蓄水池



3. 主要プロジェクト

本町において、現在事業中もしくは推進中の主要プロジェクトは次のとおりです。

(1) 福崎駅周辺整備事業

平成 26 年度から社会資本総合整備計画「訪れやすく住みやすいまち福崎」として採択を受け、賑わいのある駅前広場、駐車場や福崎駅へのアクセス道路を整備し、バス路線網の再編等により公共交通結節点機能^{*}を強化するとともに、モニュメント^{*}や観光交流センターの整備等により町の玄関口としての機能を強化します。また、J R 福崎駅の簡易橋上化^{*}や自由通路^{*}の設置を検討し、福崎駅西側の活性化を図るほか、(都) 福崎駅田原線の整備にも着手し、実現可能な道路整備を図ります。

また、防災再開発促進地区^{*}に指定されているため、地域住民と連携しながら老朽木造建物の建替え・除却を促進するなどし、地域の中で空地の確保を促進します。

(2) 辻川界限整備事業

柳田國男生家や県指定文化財三木家住宅など多くの地域資源が集中する辻川界限については、平成 23 年度から兵庫県の補助を受け観光拠点機能の強化を図ってきました。平成 26 年度からは「訪れやすく住みやすいまち福崎」の採択を受け、J R 福崎駅周辺整備との連携を図りながら地域資源のネットワーク化による更なる観光拠点化を進めます。また近年健康食材として注目が高まっているもちむぎについても、もちむぎのやかたを中心に積極的に P R するとともに民間の古民家再生等の支援を行い、地域全体の魅力を高め界限の回遊性を高めます。

(3) 道の駅整備事業

道路利用者のための「休憩施設」、道路利用者や地域の人々のための「情報発信機能」、地域と地域が連携する「地域の連携機能」という 3 つの機能を併せ持つ道の駅については、地域活性化を図るため福崎新地区の主要県道三木穴栗線沿線で計画しています。なお、整備予定地区が市街化調整区域^{*}であることから、特別指定区域制度^{*}を活用し、隣接する「旬彩蔵」とも連携を図りながら六次産業の拠点として整備を検討します。

(4) 町営住宅集約建替事業

耐用年限が経過した木造住宅が町営住宅ストックの半数以上を占めており、老朽化や痛み具合が激しいため、入居者の安全性や居住水準の観点から、早急な建て替えや入居者の移転が必要です。

また、既に集約建替が実施された団地においても、長寿命化に資する予防保全的な維持管理や補修が必要となります。平成 26 年 6 月に策定された「福崎町公営住宅等長寿命化計画」に基づき、集約建替を進めていくこととなります。町内における公営住宅による要支援世帯数と供給目標戸数について検討し、敷地規模や地域バランス等を考慮し、川西地区では駅前団地に、川東地区では大門団地を建替候補地として、集約建替を図ります。

(5) 雨水幹線整備事業

近年、市街化の進展や集中豪雨の増加等に伴い、浸水被害が頻繁に発生しています。雨水幹線整備は内水による浸水被害の低減を目指し、川西地区では駅東雨水幹線事業、川東地区では川すそ雨水幹線整備第 2 期事業に取り組みます。また、今後は直谷第 2 雨水幹線の事業化についても検討を行います。

4. 町民のまちづくりの考え方

4-1. 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、新しい総合計画策定の基礎資料とするため、全世帯を対象にアンケート調査を行い、町の現状や将来のまちづくりに対する意識やニーズを把握することを目的とします。

(2) 調査項目

- あなた自身のことについて(7問)：性別、年齢、集落名、家族構成、職業、住居形態、居住年数
- 福崎町の印象などについて(4問)：住み良さ、好きなところ・よくないところ
- 生活圏について(2問)
- 参画と協働でつくるまちづくり(5問)：取り組んでいる施策の重要度と満足度、実感(柱毎同じ)
- よく学び人と文化をはぐむまちづくり(4問)
- 健康で安心してらせるまちづくり(4問)
- 快適でうるおいのあるまちづくり(3問)
- 自然にやさしい安全なまちづくり(3問)
- 活力にあふれのびゆくまちづくり(4問)
- 福崎町の取組について(6問)：関心度・認知度、資源評価

計 42 問

(3) 調査の設計

① 調査対象地域

福崎町全域

② 調査対象

全世帯

③ 調査方法

各区長による配布、郵送回収

④ 調査時期

平成 25 年 11 月 21 日(木)～12 月 5 日(木)

(4) 回収結果

① 配布数 6,177

② 回収数 2,976

③ 回収率 48.2%

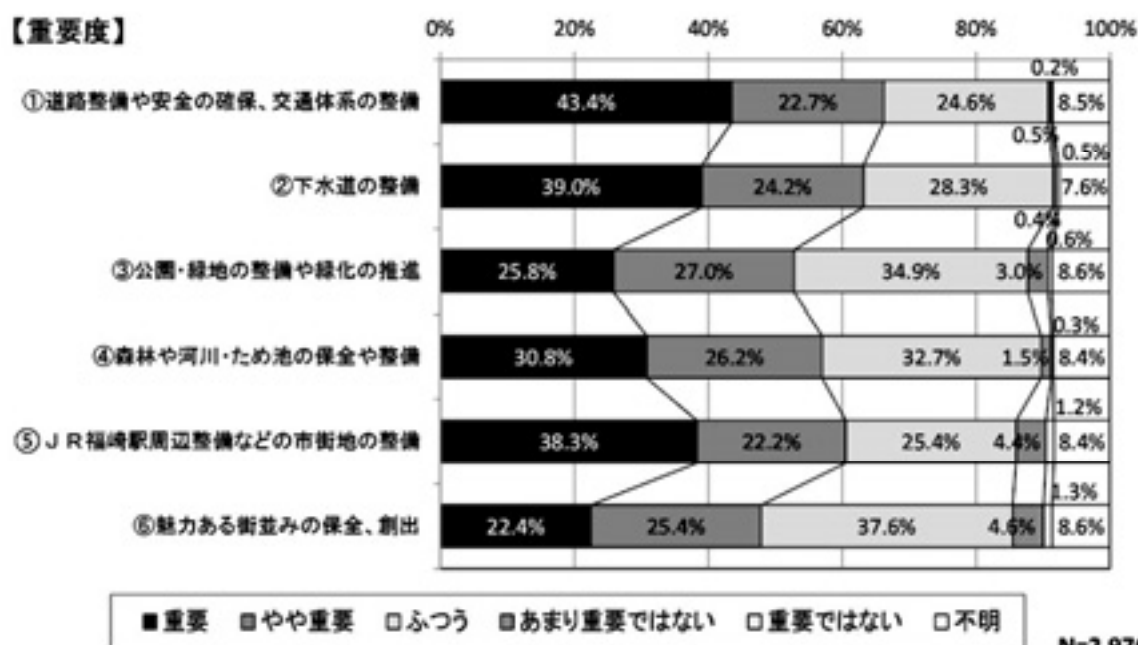
4-2. 調査の結果

快適でうるおいのあるまちづくり

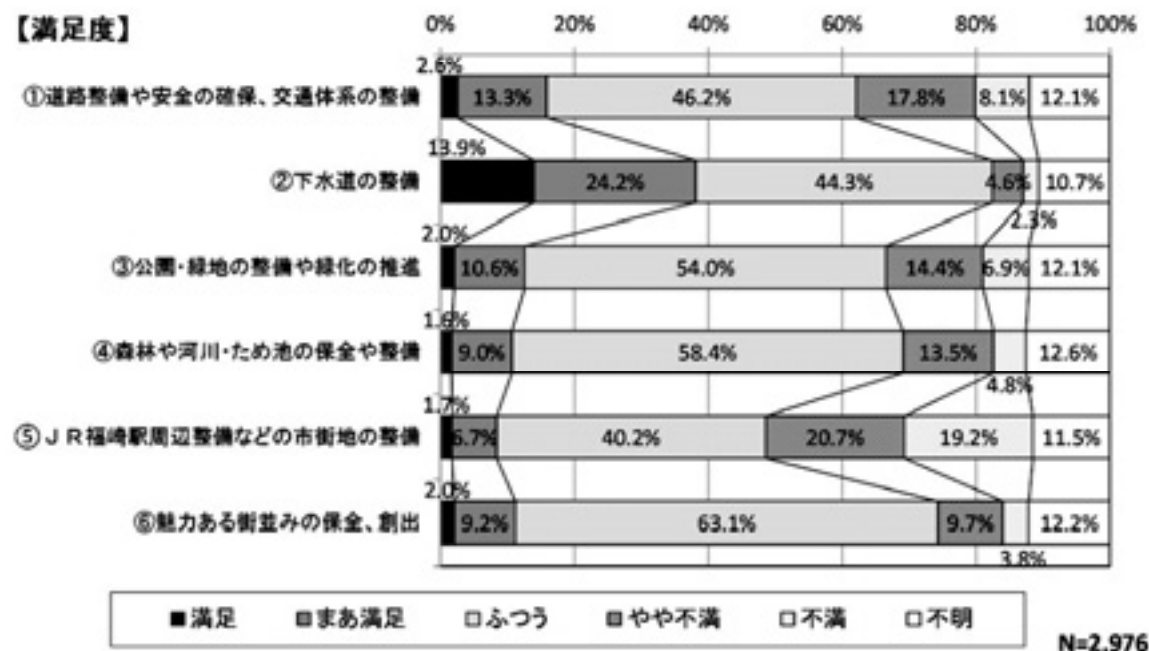
問20 現在、福岡町が取り組んでいる施策について、その重要性和現状についての満足度をお聞きします <〇は1つ>

「重要」「やや重要」を合わせた重要度が高い施策は「①道路の整備や安全の確保、交通体系の整備」「②下水道の整備」「⑤」JR福岡駅周辺整備などの市街地の整備に関する取組、「満足」「まあ満足」を合わせた満足度が高い施策は「②下水道の整備」「①道路の整備や安全の確保、交通体系の整備」「③公園・緑地の整備や緑化の推進」の順です。

【重要度】

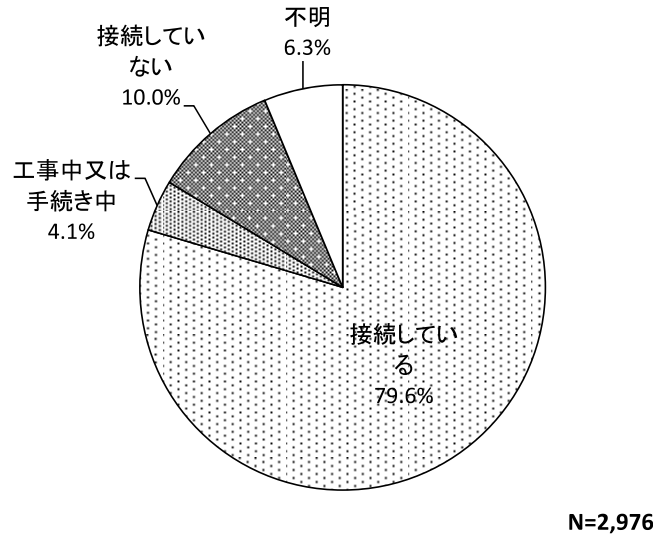


【満足度】



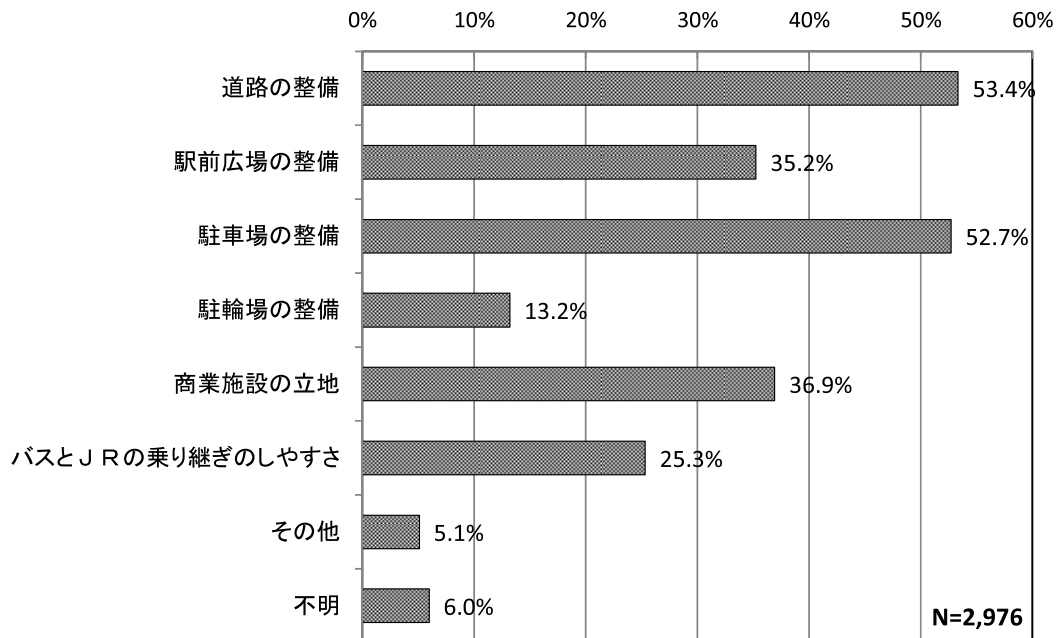
問21 住環境を守るため、生活排水処理について、下水道施設又は集落排水施設等に接続していますか <〇は1つ>

下水道施設等に「接続している」「工事中又は手続き中」を合わせると8割を超えます。



問22 JR福崎駅周辺整備に何を期待しますか <〇は3つ>

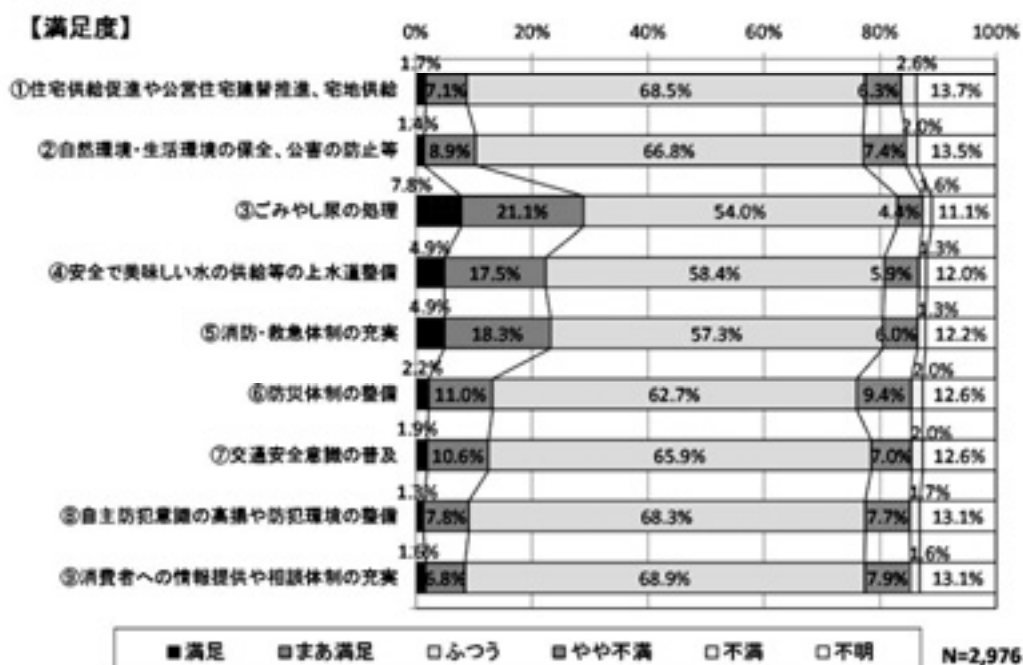
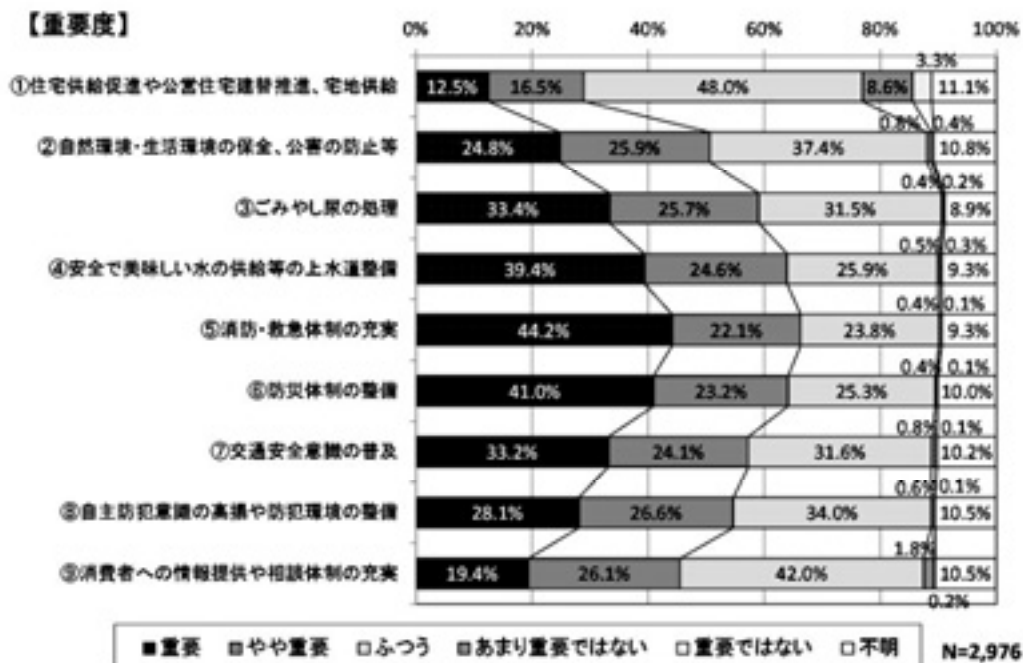
駅周辺整備に期待するのは、「道路の整備」がもっとも高く、ついで「駐車場の整備」「商業施設の立地」「駅前広場の整備」の順です。



自然にやさしい安全なまちづくり

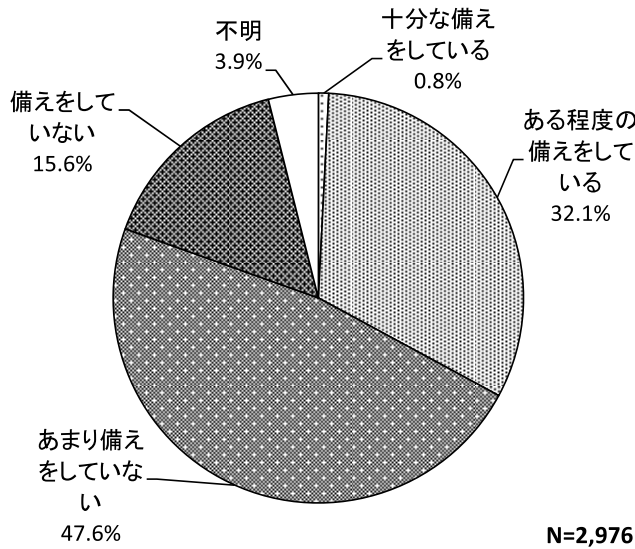
問23 現在、福岡町が取り組んでいる施策について、その重要性と現状についての満足度をお聞きします <〇は1つ>

「重要」「やや重要」を合わせた重要度が高い施策は「⑤消防・救急体制の充実」「④安全で美味しい水の供給などの上水道の整備」「⑥防災体制の整備」、「満足」「まあ満足」を合わせた満足度が高い施策は「③ごみやし尿の処理」「⑤消防・救急体制の充実」「④安全で美味しい水の供給などの上水道の整備」の順です。



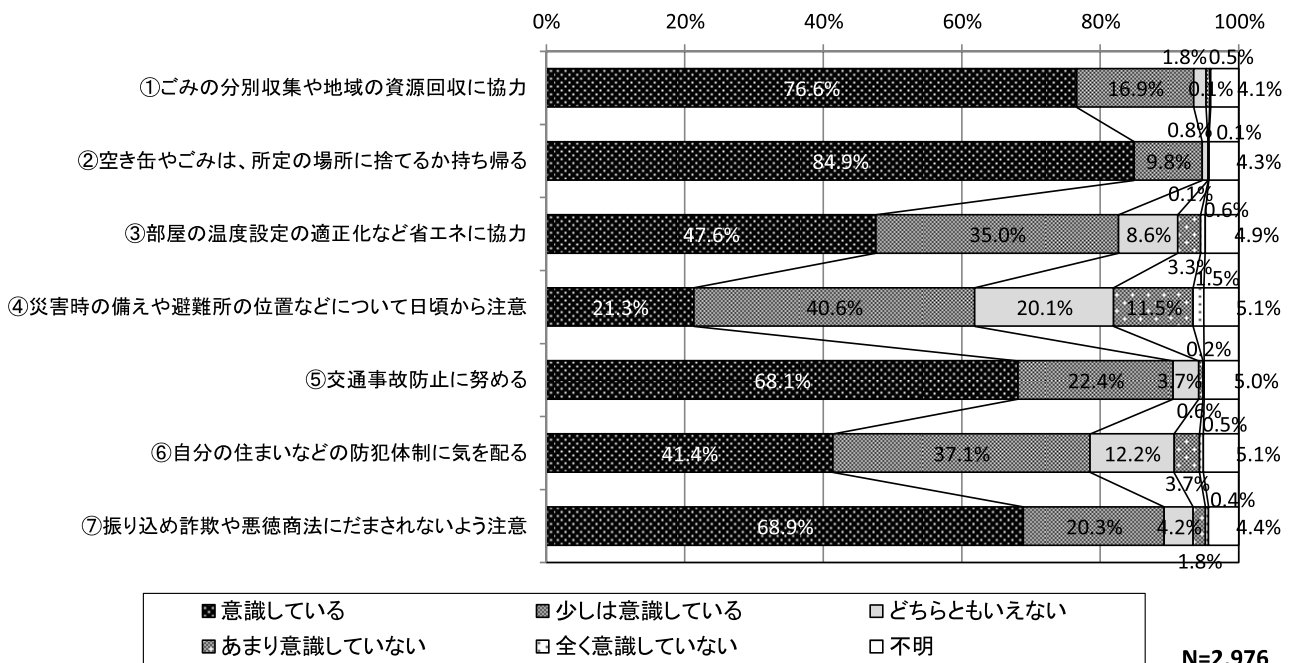
問24 地震や火災などの災害に対して、備えをしていますか <〇は1つ>

「十分な備えをしている」「ある程度の備えをしている」を合わせると3割程度です。



問25 あなたの日頃の行動や活動についてお聞きします <〇は1つ>

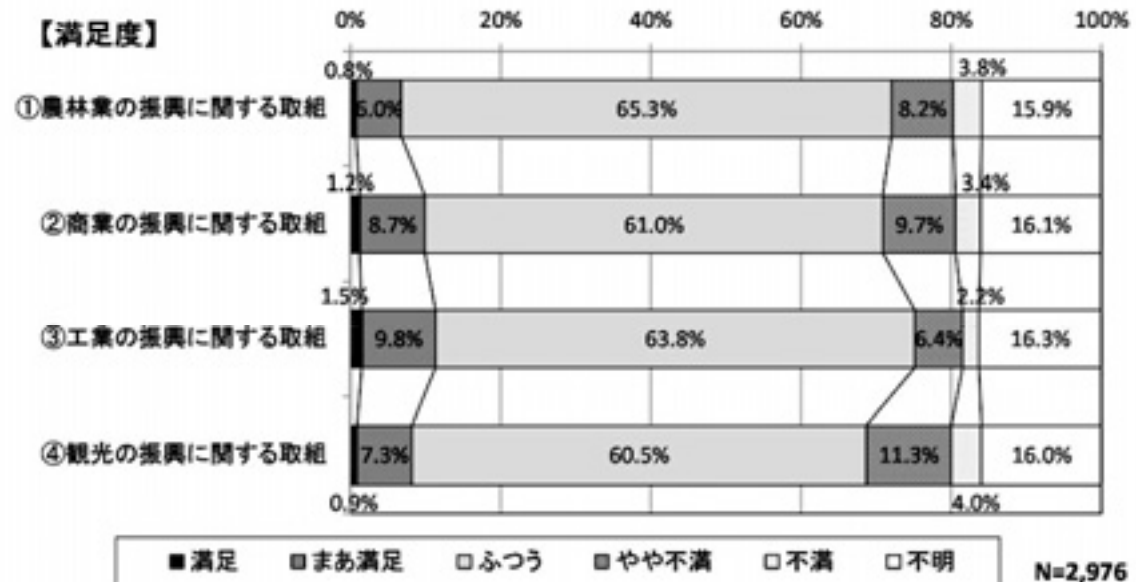
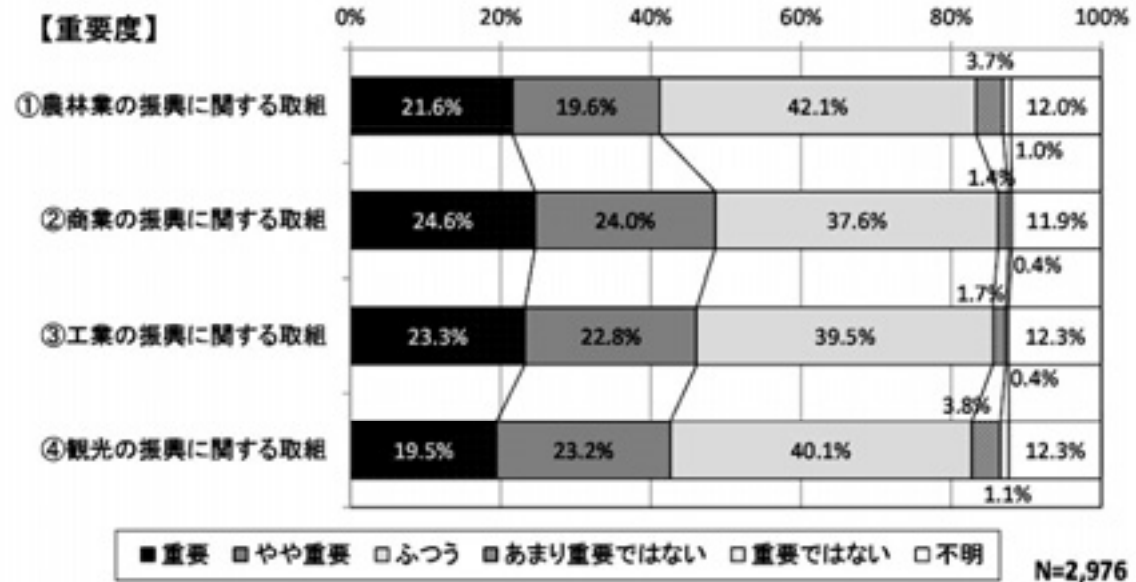
「意識している」「少しは意識している」をあわせた意識が高い行動や活動は、「空き缶やごみは、所定の場所に捨てるか持ち帰る」「ごみの分別収集や地域の資源回収に協力」「交通事故防止に努める」の順です。「④災害時の備えや避難所の位置などについて日頃から注意」はもっとも低くなっています。



活力にあふれのびゆくまちづくり

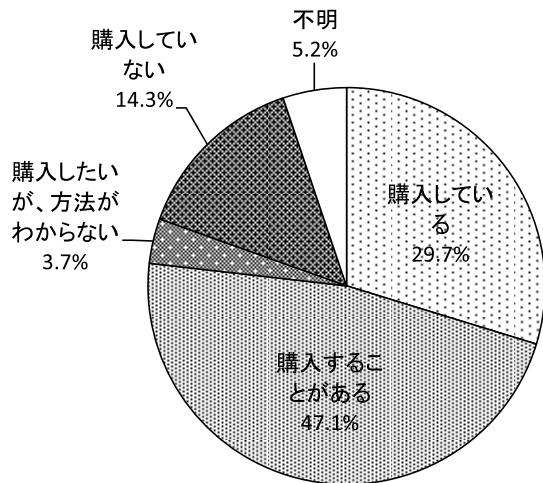
問26 現在、福崎町が取り組んでいる施策について、その重要性和現状についての満足度をお聞きします <〇は1つ>

「重要」「やや重要」を合わせた重要度が高い施策は「②商業の振興に関する取組」「③工業の振興に関する取組」「④観光の振興に関する取組」、「満足」「まあ満足」を合わせた満足度が高い施策は「③工業の振興に関する取組」「②商業の振興に関する取組」「④観光の振興に関する取組」の順です。



問27 あなたは、地産地消を意識して農作物を購入していますか <〇は1つ>

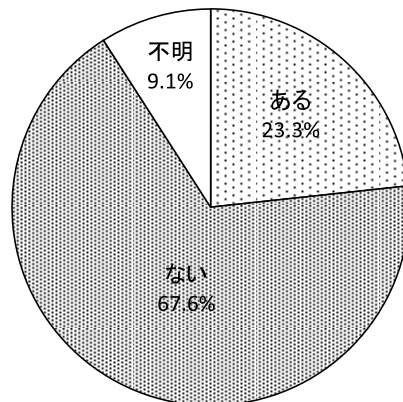
「購入している」「購入することがある」を合わせると8割弱です。



N=2,976

問28 あなたの知人や友人を案内したいと思う町内の観光地がありますか <〇は1つ>

「ある」と回答した人が4分の1程度で、具体的には、柳田國男、もちむぎ、七種山関連が多い状況です。



N=2,976

5. 本町の問題点と課題

本町の現況と動向をもとに、現在本町が抱える問題点と課題を以下の項目により整理します。

① 人口対策

本町の人口は、工業団地造成や大学の開学、外国人研修生の受け入れなどにより増加してきましたが、平成 22 年国勢調査から減少に転じています。平成 27 年国勢調査でもその傾向は続いており、今後は人口の減少と少子高齢化の進行が予想されるため、若者の定住策や U J I ターン^{*}や特別指定区域の拡充など少子高齢化対策及び人口の維持・増加に向けた居住環境の整備を図っていく必要があります。

また、本町では昼間人口が夜間人口を大きく上回っており、日常的に、通勤・通学、文化・スポーツ活動、観光・レクリエーション、買い物、ビジネスなど様々な目的をもって、町外から本町を訪れ活動する数多くの人々がおられます。こうした方についても、町政や住民活動等に大きな関わりがあります。特に、人口も中長期的には減少局面に入ることが予想される今後のまちづくりでは、広域的な連携と交流を積極的に進め、交流圏の拡大を推進し、町の活力の向上を図ることが重要なため、居住者に加え来訪者にも注目したまちづくりを進めることが望まれます。

② 土地利用

本町の市街地は、旧集落による自然発生的な市街地として、J R 福崎駅周辺から市川東部まで東西に連坦しています。住宅地には、商業、工業の混在が見られ、そのまわりを取りまく市街化区域内は農地及び低未利用地^{*}が約半分を占めています。

今後は、少子高齢化の進展により土地利用転換や農地転用の鈍化が予想されるため、計画的な土地利用転換とともに、今後も存続すべき都市農地については、生活に密着した農空間として防災農地^{*}や景観農地^{*}など多面的利用を位置づける必要があります。

また、市街化調整区域^{*}では、優良な農地の保全に努め、田園環境と調和した土地利用を図るとともに特別指定区域制度^{*}や地区計画制度^{*}の活用が必要となります。

③ 産業

本町の産業は、中国縦貫自動車道の開通を機に整備された福崎工業団地や平成以降に整備された福崎企業団地及び福崎町東部工業団地が大きな比重を占め、雇用機会の創出や税収をはじめ様々な面で本町の活性化に大きな役割を果たしています。

良好な立地条件を生かし優良企業の誘致が進み、現在全ての分譲が完了しています。近年は更なる設備投資が行われ、敷地規模の拡大など新たな課題が顕在化してきています。

商業は、旧来からの商店が高齢化や後継者不足などにより衰退し空き店舗は増加傾向にあります。年間販売額は近年減少傾向にありましたが、主要道路沿線の活性化により現在は横ばい傾向となっています。今後は、J R 福崎駅で進めている駅前広場を起爆剤にして、周辺の低未利用地^{*}の活用や空き家・空き店舗のリノベーション^{*}などを通して商業を活性化させることが必要です。

農業は、少子高齢化の進展などにより耕作放棄地^{*}の増加が予測されます。今後は、ほ場整備の推進や担い手^{*}などによる農地の集約化を進めることが必要です。

④ 公共交通

本町の公共交通は、鉄道と路線バス及びコミュニティバス*があります。鉄道は、電化による利便性の向上や大学の開学により一旦は増加しましたが、平成 22 年からは減少傾向にあります。J R 福崎駅周辺整備の推進や公共交通結節点機能*の向上などを行い、J R の利用増進を図る必要があります。

路線バスも利用者の減少により路線の廃止や運行本数の減少が進んでいます。路線バスの運行を継続することは、公共交通維持確保の観点から補助等により、路線維持や利用増進を図る必要があります。

コミュニティバスは、運行再編を行った後、徐々に利用者が増加していますが、郊外便の予約型運行の利用が伸び悩んでいます。

広域的な医療受診のための利用へのニーズも高いため、運行や路線拡充の検討が必要となります。

⑤ 道路・都市計画道路*

本町の広域間の交通は、東西軸の中国縦貫自動車道、南北軸の播但連絡道路が交わる福崎インターチェンジに連絡する国道、県道及び主要幹線道路の整備が遅れています。市街地内では主要幹線道路に交通が集中し、本町の中心を南北に流れる市川を横断する交通容量が不足しており橋梁の整備が急がれます。

また、個別路線の課題では、(都) 西光寺高橋線の市川橋梁部や(都) 大門西治線の交差点改良、県道前之庄市川線の通行不能区間の解消、(都) 福崎駅田原線、(都) 辻川北野線の整備による交通渋滞対策が必要です。

⑥ 市街地整備

本町の市街地整備は、J R 福崎駅周辺と福崎 I C 周辺を中心に市街地が形成されています。福崎駅周辺は、密集市街地で防災再開発促進地区*に指定され、防犯上危険な木造老朽家屋も多いため、建て替えの促進や空地の確保などを進める必要があります。市街化区域内の農地や低未利用地*では、宅地化と都市農地保全のバランスを検討した整備が必要です。また、用途地域*も適切な誘導を図るため段階的に見直すなど柔軟な対応が必要となります。

⑦ 公園・緑地*

本町の都市計画決定*された公園・緑地*は、市川河川公園のみとなっていますが、その他にも都市公園*としてイーストパーク、町内各地には 26 か所のふれあい広場があり、社会教育施設として辻川山公園やスポーツ公園・さるびあドームを中心とした第 3 グランドなどが整備されています。近年、各地で公園の遊具の不具合による事故が発生しているため定期的な点検を実施し、遊具の安全確保を図ることが重要です。

また、公園緑地*は災害時の避難地として有効に機能することから、防災の観点から適正な配置を検討する必要があります。

⑧ 河川

本町の河川は、市川やその支川の二級河川*が 5 本、普通河川が 26 本流れており、改修率は二級河川*では約 39%、普通河川では約 66%となっています。市川の香福橋付近は狭隘断面となっており早期の改修が望まれます。

今後は、防災及び環境面を重視し、公共下水道雨水計画と整合した改修を進めつつ、潤いのある水辺環境を提供していく必要があります。

⑨ 住宅

本町の住宅動向は、持ち家比率が約 7 割と高い状況にあります。人口は減少傾向ですが、世帯数は増加傾向で核家族化の進展が見られます。人口減少に伴い空き家数は増加傾向で、住環境の悪化や防犯面での不安が懸念されるため対策が必要です。

近年大規模な地震が頻発しているため、昭和 56 年以前の旧耐震基準で建築されている住宅については、住宅耐震化の促進も必要です。

また、町営住宅は、老朽化が著しい住宅について集約し、計画的に建て替えることが必要とされています。

⑩ 下水道

本町の下水道は、コミュニティプラント*及び農業集落排水処理施設については、計画していた処理区全てが完了し稼働しています。公共下水道についても、福崎浄化センターでは一層の環境保全に努めるため全国で初めて膜を利用した高度処理方式を採用し、平成 17 年 3 月に供用を開始し、平成 28 年 3 月末で全ての工区で整備が完了しました。今後は施設の長寿命化を図るため、コミュニティプラント*や農業集落排水の公共下水道の接続・統合の検討や、適切な維持管理を行うとともに、処理施設の計画的な長寿命化計画についても検討する必要があります。

また、内水対策では田原地区の川すそ雨水幹線の整備や福崎地区の駅東雨水幹線や直谷第 2 雨水幹線などの整備を進める必要があります。

⑪ 公共施設等

本町の公共施設は、福崎町役場庁舎を中心とした官公署施設や教育施設に加え、公営住宅、福祉施設、文化施設、コミュニティ施設などがあります。現在も適正な維持管理に努めていますが、老朽化の著しい施設もあります。今後の人口減少社会に備えるためには各施設の需要や必要性を考慮し、長期的視点に立った老朽化対策と適切な維持管理や修繕を行うために公共施設等総合管理計画*を策定する必要があります。

また、ゴミ処理やし尿処理、火葬場などの処理施設については、連携している姫路市等と協力し、各施設の適正な管理を行い、長寿命化を図る必要があります。

⑫ 観光

本町の観光資源や施設は、辻川界隈に柳田國男生家や大庄屋三木家住宅などの歴史的建築物や河童装置や天狗装置がある辻川山公園などがあります。更に本町の特産品であるもちむぎ商品の売店、レストランを備えたもちむぎのやかたもあります。また七種の滝や応聖寺、春日山城跡など豊かな自然と歴史文化を堪能できる観光資源が点在しています。しかし、各観光資源をつなぐ観光ルートが未整備のため観光客の回遊性に乏しく短期の滞在に留まっています。

今後は各観光資源への観光ルートや駐車場の整備、観光資源の魅力を伝えるために観光交流センターの建築を進める必要があります。

⑬ 防災・減災*

本町は、山崎断層帯の活動による大規模な地震が予想される地域となっています。更に近年は局地的な集中豪雨や宅地開発の進行による農地の減少や山林の荒廃による保水能力の低下などにより浸水被害や山地崩壊被害の危険性が高まっているため、減災*の視点を取り入れた総合的な対策が必要となっています。避難場所の耐震化や狭隘な生活道路の改善などの取り組みも必要になります。

また、災害時には住民自らが安全に避難し、要援護者の避難誘導が円滑に行われるためにも地域での自主防災訓練などを継続して行い、関係機関と連携した防災体制を整備する事が大切です。